業務資料No. 759

ゆうかり

第14回移住者子弟技術研修生
研　修　レ　ポ　ー　ト

1986年3月

国際協力事業団

移国内
JR
86－6

JICA LIBRARY
1028129[3]

000
29.7
EMD

ゆうかり

第14回移住者子弟技術研修生
研　修　レ　ポ　ー　ト

1986年3月

国際協力事業団

国際協力事業団	
受入月日 '86.7.28	000
	247
登録No. 12952	EMD

ま　え　が　き

国際協力事業団では，中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し，その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術研修および知識を修得せしめることを目的に「移住者子弟技術研修制度」を実施している。

この制度は昭和46年度から実施し，受入れた研修生は，現在研修中の第15回生を含め，総数278名に達している。

本誌は第14回生（研修期間：昭和59年4月～60年9月）の1年6カ月間における研修総括報告書および研修記録をまとめたものである。

各研修生は幼い頃両親に連れられて移住し成人となった，あるいは中南米の地で生れた二世・三世の人達の中から選ばれた子弟であるが，父母が生れ育った国における研修は，単に技術を身につけるということだけではなく，日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなっている。

高度成長した日本の社会機構の中で身をもって体験し，かつ，修得した知識と技術を生かし，研修生諸君が帰国後移住地および地域社会の発展に大きな貢献を果すものと確信するものである。

最後に移住者子弟技術研修制度を深くご理解いただき，研修生徒諸君を温かくご指導下さった，関係機関の皆様にあらためて感謝の意を表わす次第である。

1986年3月

国際協力事業団
移住事業部長

研修修了記念

（昭和60年9月26日　海外移住センター玄関）

目　　次

まえがき

研修総括報告書 …… 1

野沢正晴	ブラジル	エフゼニオ・サーレス	1
徳永ソニア・マリア	〃	サントアントニオ・ド・タウアー	2
永山礼子	〃	イタチーバ	5
津守慎一	〃	フンシャール	7
斉藤昭典	〃	カストロ	9
井伊博之	〃	サンミゲール・アルカンジョ	11
鈴木芳夫	〃	アチバイア	13
丸山翠マリア	〃	イビボラン	14
鈴川宏道	〃	バルゼア・アレグレ	18
黒木泰一郎	〃	クリチーバノス	20
正岡とも代	パラグァイ	アルトパラナ	23
上野勉	〃	チャベス	26
近藤哲士	〃	イグアスー	27
谷信一	〃	フラム	31
中野文子	アルゼンティン	グレウ	32
中田アリシア	ボリヴィア	オキナワ	34
堤幸子	〃	サンファン	38
比嘉徹	〃	オキナワ	40
山本富士佳	ドミニカ	サン・クリストバル	45
崎浜秀樹	ペルー	リマ	47
岡本ルイサ	〃	リマ	50
本保恵子	チリ	サンティアゴ	52
富谷ベルタ・イザベル	コロンビア	カリ	56

前期研修を終えて

野沢正晴 …… 59

徳永ソニア・マリア …… 59

永山礼子 …… 60

津守慎一 …… 61
斉藤昭典 …… 62
井伊博之 …… 63
鈴木芳夫 …… 64
丸山翠アリセ …… 65
鈴川宏道 …… 66
黒木恭一郎 …… 67
正岡とも代 …… 68
上野勉 …… 69
近藤哲士 …… 69
谷信一 …… 70
中野文子 …… 71
中田アリシア …… 72
堺幸子 …… 73
比嘉徹 …… 74
山本富士佳 …… 74
崎浜秀樹 …… 76
岡本ルイサ …… 76
本保恵子 …… 77
富谷ベルタ・イザベル …… 78

子弟研修生名簿 …… 79

子弟研修生一覧表 …… 84

本国生で6ケ月コースの大貫光春，木村マリオ，山田紀行及び山口晃の4名の報告書は，第13回移住者子弟技術研修生研修レポート「ゆうかり」に掲載。

益　子（59年10月）

海外移住センター

十和田湖（60年8月）

十和田湖（60年8月）

厳美渓（60年8月）

男鹿半島（60年8月）

小岩井農場（60年8月）

海外移住センター（60年9月）

研修総括報告書

野沢正晴
徳永ソニア・マリア
永山礼子
津守慎一
斉藤昭典
井伊博之
鈴木芳夫
丸山翠アリセ
鈴川宏道
黒木恭一郎
正岡とも代
上野勉
近藤哲士
谷信一
中野文子
中田アリシア
堤幸子
比嘉徹
山本富士佳
崎浜秀樹
岡本ルイサ
本保恵子
富谷ベルタ・イザベル

研修総括報告書

野沢正晴（ブラジル エフゼニオ・サーレス）

1. 研修機関　(1) 前期　福岡県糸島郡農業協同組合
　　(2) 後期
2. 研修期間　昭和59年4月～昭和60年9月
3. 研修職種　農業機械

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

私はブラジルでは機械せんもんの学校を卒業し，また家では農業をやっているので農業機械なら技術の進んでいる日本でもなんとかついていけるだろうし，国へ帰国してからも役立つだろうと思って来ました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

- 動力噴霧器については，ピストンパッキンシリンダーの摩耗，オーリングのき裂等の点検の仕方などを中心に勉強してきました。
- 動力散布器では，2サイクルエンジン，キャブレターの掃除又は調節の仕方，点火コイルの点検または交換などについて学びました。
- バインダに関しては，刈り取り部のカッターの研ぎ方と攪拌機の調節とタイミングの合わせ方を学びました。
- コンバインはバインダに似ている刈りとり部のほか，こぎどうつめの交換の仕方と選別部のとうみ，うけざらの調節の仕方を習いました。
- トラクターでは，ガスケットパッキンからの圧縮洩れのなおしかた，バルブすりあわせ，バルブクリアランス，オーバーヒートの原因，油圧かんけい，電気系統などはほとんどおぼえました。

成果としては，5月16日～6月14日佐賀県の全国農業協同組合連合会（全農）九州講習所の基礎講習のテストで24名の中で2回，ベスト10位以内にくいこむことができたことと，溶接の免許がとれたことです。

これも糸島郡農協と国際協力事業団のおかげですので，心からかんしゃしています。あるていど苦労もしましたが，頑張ったかいはありました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

自分としてはもっと幅狭く，深くトラクターと作業機械などについても学びたかったのですが，こうかいはしていません。きっといつか今までマスターしてきたことを使う時が来ると信じています。

7. 合同研修会について

6ケ月毎に行われる合同研修会は僕達にとって一番の楽しみでした。研修生達が集まり，色々とアイデアの交換をしたり色々悩み事を語りあい，それぞれはげましあい，次の研修に思いきりうちこめる協力になる大変大切なものでした。

8. 本邦での生活状況

研修先の糸島郡農業協同組合の人達には，とても優しくしてもらいました。テレビ，ラジオ，こたつ，ジャンバーなどかしてもらいました。又しんせきからはふとんをかしてもらい，土日とか祭日などには泊まらせてもらったり，あっちこっちに連れて行ってもらいました。下宿の人達にもお世話になり，生活にはほとんど不自由はありませんでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

できれば2グループぐらいに分けてもらった様うがいいのではないでしょうか。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

私は昨年の4月に国際協力事業団の第14回生の研修生として受け入れていただき，日本へ来ることが出来ました。

イメージとしては，日本の全国的に何段にもかさなった高速道路ばっかりだと思っていましたが，実際来てみると，そうではなく，まだ細くて走りにくい道がまだけっこうあるんだなあと驚きました。

日本の良いところと言いますと，電車の時間が正確であることで，逆に言いますと，電車が遅れたから遅刻したと言い訳ができないこと。また，四季の美しさも経験することができ，特にきれいだなあと思ったのが秋と春です。適温で住みごこちがよかった。冬は美しいのですが，寒さには祭まされました。国へ帰国してから，日本で学んだことをどの程度役立てられるかわかりませんが，なるべく役立つように努力します。

徳永ソニア・マリア（ブラジル　サントアントニオ・ド・タウアー）

1. 研修機関　(1) 前期　神奈川県立成人病センター
　　(2) 後期　同上・国際女子研修センター
2. 研修期間　昭和59年4月～60年9月
3. 研修職種　看護婦

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

昭和55年から，国立パラー大学で看護の道を歩み，日系アマゾニア病院の応援をいただきながら，昭和58年に卒業することが出きました。

国際協力事業団から，子弟技術研修生として運よくえらばれ，総合看護管理や看護外科技術などをより深く学びたいと言う希望でまいりました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

昭和59年4月9日，海外移住センターで宿泊しながら，神奈川県立成人病センターへ研修に通うことになりました。

新しい病院環境で，一日の決められた勤務の中で，手際良く働く看護婦たちを見て，最初のころは指示の多い日々が続きました。月日が立ち，少しずつ勤務に入って行けるようになり，自分の国で学んで来た看護を忘れないように自覚しながら，病棟にしろ，手術室にしろ，各セクションを回るごとに，一つ一つ身に付くようになりました。しかし，部分的に見ただけでは足りない気がして，外科に限らず，病院全体を知る必要性を感じました。

病院を知ることにつれて，自分の目的を見失わず進むことが出来，リハビリテーション，救急看護，産婦人科，小児科，老人ホームなど，いろいろな病院や施設で研修が出来ました。

患者に対する看護婦の接し方，チームナーシング，社会のニーズに対する感受性，そして，機械化とその扱い方など見たり，または体験することによって看護婦たちが，高度の知識や技術を得るための努力が理解出来ました。

一方，病棟チームナーシングで，それぞれの役目や業務分担のシステムが広いほど複雑になり，また，それにそって，管理の観察面もきびしくなって来ることが実際に見ることが出来ました。

各セクションの努力から，総合看護システムの機能をささえていくための働きも把握出来ました。

管理は，多くの情報をスムーズにメンバーに伝え，医療の変化をチームメンバーと一体となって受けとめ，積極的に変革していく態度を示すことや，新しい状況を先取りしていくものと考えます。

そのためには，いろいろの専門看護を身につけ，長年の体験が必要であることをつくづく思いしらされました。

看護基準は世界共通と思うわけですが，保助看法にそって少しは変ってきます。また，経済的にも医療の世界にしても豊かな日本での看護は，やはり私にとって同一の物とは思えませんでした。

その他，国際女子研修センターで学びました茶道，生花，料理実施，小児理論などは，女性にとって知っておく必要なことで又，専門研修職種からはなれて，気分転換にもなり良い勉強になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

学習のため，人体を部位に分けるように看護も専門分野に分けることが出来ますが，私が計画した中では総合的なもので，一年半の期間内で得られるものではありません。そこで，出来る範囲，広く浅く又，必要性に応じて，具体的に，婦長さん方のご意見やご相談の上，精一杯，研修させていただくことが出来ました。看護者として，まだまだ十分とは言えませんが，悔いはありません。

7. 合同研修会について

研修生全員があつまる機会であり，多くのアドバイス，意見交換やスポーツなどが出来て，楽しみや，心強さを与えてくれました。その他，日本の文化についての講義，研修旅行は，日本語研修を受けられなかった私にとっては，大変プラスになり，また，名所旧跡などを近くから見られて嬉しく思いました。

8. 本邦での生活状況

研修先で，言葉に関して，専門用語以外は困りませんでしたが，外人だと言う実感で意識されてしまうのか，一年くらいまでは，あまり会話することもありませんでした。そのうち，自分が慣れていくにつれて，だんだんそう言うことも無くなり，看護婦さんたちと楽しい仕事時間を過せるようになりました。

私は，全期間海外移住センターでお世話になっていましたので，生活状況や研修の問題点など，JICAの方々に直接相談することが出来ました。また，休日には，一緒に生活していた研修生たちと自炊したり，話合ったりすることが出来ましたので，あまり淋しい思いをすることもありませんでした。

各地で研修している人たちより困ったり，悩んだりすることが少なく，恵まれていたと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- 私は，日本へJICAから研修生として来たことを誇りに思います。なぜなら，自分の力ではこのような機会に巡り合うことが出来なかったと思うからです。
  これからも，もっと多くの日系人に，このような機会が与えられるよう願います。
- 今回，第14回生から第15回生につづき，一部が海外移住センターに残り，それぞれの研修先へ通っています。これからも続けられることを希望します。
- 国を出るまでに前研修生たちや，自分の研修先の情報がもっと詳しく得られるものでしたら良いと思います。

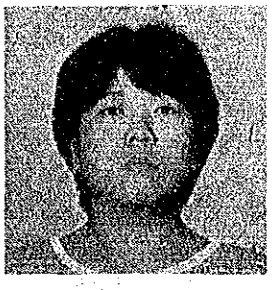
10. 所感（帰国後の抱負を含め）

一年半の間勉強して来た中で，色々と嬉しかったこと，辛かったこと，書ききれないほどあります。しかし，それが一つ一つ重なって，支えになり，成長させてくれると思います。

年を重ね勉強し，色々な経験から知識を得ながら，病院内での研修だけに限らず，看護総会や学会に参加させていただき，なんとなく日本看護の歴史がわかったような気がします。そして，貴重な時間を私のために色々なお話して下さいました総看護婦長さま，副総看護婦長さまへ心から感謝いたします。

パラー州の遅れている看護技術の中で，私が研修中学んだことをどのような方法で活用するか，自分なりの考えが明らかになって来ました。

とうして研修を無事終了させていただいたことに，お世話になった病院の方々，JICAの方々また，海外移住センターの皆様のご指導，ご協力によるものです。長い間本当に有難うございました。



永山礼子セシリア（ブラジル　イタチーバ）

1. 研修機関　(1) 前期　玉川学園玉川大学文学部教育学科
　(2) 後期　　同　上
2. 研修期間　昭和50年4月～60年8月
3. 研修職種　日本語教育

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

日本に来て勉強する事は小さい時からの夢でした。日本の素晴しい文化，教育を身に付け，体験して，ブラジルの一人一人に伝える事が第一目標でした。日本に来て研修を始めて一年半立ちました。反省すると，不安点，疑問点は沢山あります。けれども得た事の方が多かったと思います。私の人生にとっては，素晴らしい経験を身に付けさせました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

玉川大学文学部教育学科で1年半の研修をさせて頂きました。前期は，先生方に指導して頂き，先輩に指導して頂きました。後期からは，全て自分で授業，講義を選択して勉強しました。

〔大学前期〕

- 文学部教育学科　―全人教育論，社会学，教育史，日本史，国語教材研究，教育方法論，世界史（東洋），教育学概論
- 文学部芸術学科　―表現教育の研究，リトミック，音楽リズム，ピアノ実技
- 夏期スクーリング―教育原理，道徳教育の研究，教育哲学
　ゼミナール　―国際教育におけるアジア

〔大学後期〕

- 文学部教育学科　―全人教育論（特別講義），日本史，国語(II)，哲学概論，文章作法，音楽リズム，ピアノ実技
- 外国語学科　―英語
- 夏期スクーリング―教育原理，東洋心理学，哲学
　ゼミナール　―国際教育におけるアジア（インドを中心として）
- その他―5ケ月間―中学部実習
　4ケ月間―高等部実習

週一回　―会話―ポルトガル語，日本語

塾教養講座―花道

月一回　―“海外移住研究会”（四谷）

。との18ケ月間の研修は，私にとっては よかったと思っています。玉川大学創立者小原先生の“全人教育論”を知り，それだけでも大変勉強になりました。日本の文化を見，知り，様々な人と出合い，素晴らしい先生にお世話になりながら，研修を無事に終えました。研修の成果は，これからだと思います。帰国後学んだ事をブラジルで生かす事が私の次の大きい目標です。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画は日本の進んだ教育を学ぶ事でした。日本について間もなく玉川大学で研修を始めました。たしかに玉川大学教育学部は素晴らしい事を教えています。特に玉大でしか学べない，創立者小原先生の“全人教育論”です。けれども，玉川教育を学ぶ事は，日本の教育を学ぶ事とはいえません。ですから自分から進んで，シンポジウムに参加するなり，ゼミナールに参加するなり，外の大学も見学する必要性を感じましたので，6ケ月経ってからは，積極的に行動を取りました。

7. 合同研修会について

初めての6ケ月間は研修先に慣れないため，勉強の方も期待通りいかないため，合同研修会で仲間と会う事が一番の楽しみでした。1年経つと研修先にすっかり慣れて，そこでの友達も大切になり，また違った気分の合同研修会でした。今回はもう最後の合同研修会ですので，考えると胸が痛みます。

8. 本邦での生活状況

日本に来て寮生活する事は前からお知らせがありました。けれども入った所は，普通の寮と違って日本でも珍しい所です。21才になってこんなに規則正しい生活を送るとは夢にも思っていませんでした。余りの厳しさに，最初のころは驚きました。こんな所で1年半も生活する事は大丈夫なのでしょうかと何回も疑いました。初めの3ケ月間は，先輩について行く事しかできませんでした。その後は少々に慣れ初め，自分から積極的に物事を判断するようになりました。1年3ケ月経ち，振り返って見ると，玉川の塾に入ってよかったと思っています。玉川塾でしかできない事を身に付け，様々な人との出合い，素晴らしい体験をさせて頂きました。玉川塾はきっと一生忘れません。

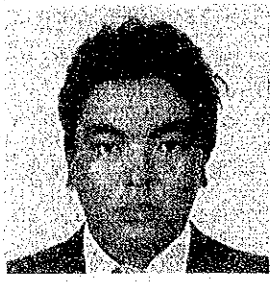
9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

両立できる人には，たしかに玉川塾生活をしながら玉川大学で勉強する事は素晴らしい事だと思います。けれども，自分の研修目的をはっきりさせておく必要があると思います。たったの1年半ですから，日々有効に使う方法を考えて，積極的に行動を取らなくてはいけません。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

帰国後は，1年半の間に学んだ事をブラジルの一人一人に伝えるため，がんばりたいと思います。国際協力事業団を始め，玉川大学国際教育室，大学の先生方，実習中，中学部，高等部でお世話にな

った先生方，感謝の気持で胸がいっぱいです。本当にありがとうございました。



津守ロベルト真一（ブラジル
フンシャール）

1. 研修機関　(1) 前期　広島㈲高木農園
　　(2) 後期　神奈川㈲ミウラ・メリクロン
2. 研修期間　昭和５９年４月～６０年９
3. 研修職種　花卉園芸
4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

“洋蘭の栽培技術研修”

1. 洋蘭，特に胡蝶蘭とカトレアの栽培技術について習得する。
2. 蘭科植物の繁殖技術，特に組織培養（メリクロン）について習得する。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

昭和59年５月８日より，広島県高木農園において，一年間の実習を受けました。

先ずは，灌水，温度，肥培管理を教わりました。この３要素は洋蘭にとっては一番大事な事です。さらに開花調節，切花の出荷方法，植込み材料，Ｃｐ（コミニティー，ポット）の植方，芽掻作業，洋蘭の病害虫の診断，発生予察と防除のために薬剤散布。冬期の準備に，温室の修理，温度を保つために内張りを張る作業，ボイラーと温水パイプの整備と点検などを行ないました。又半年ほど洋蘭の組織培養技術を学ぶ事が出来ました。先ずは，ガラス器具の洗浄と乾燥，培地の作成，P_Hの計測と調節作業，材料の消毒方法，生長点の採芽と培養，植物ホルモンを使って植物体の生長観察実験，胡蝶蘭の花梗培養，蘭科植物種子の無菌発芽の方法，プロトコームの増殖，定殖などを学ぶ事が出来ました。

後期は神奈川県，ミウラ・メリクロンで研修を受けました。ここでは洋蘭を中心として，生産農家へ苗の販売，又はブラジル支店を持ち，世界中へ洋蘭のコネクションが有ります。ここでは先ずＣｐの植え方から鉢上げまで一通り出来ました。又研修中に三重県，スズカ洋蘭へ胡蝶蘭栽培に付いて，４０日程ど実習に行かせてもらいました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私にとってこの１年半は，自分の希望以上の成果を上げることができて満足しています。又ＪＩＣＡの方々，そして研修受入れ先の方々にも，心より深く感謝致します。

7. 合同研修会について

私達子弟研修生にとって，合同研修会は最高の楽しみであります。又日本の慣れない生活状況の中から専門的な知識技術を身に付けて行く為には，つらい事等数多くあったのではないかと思います。

合同研修会では，皆から助言や，個人体験などを聞き，又自分の母国語で思い切り話すことが出来ました。そして楽しい研修旅行もできて心から感謝しています。

8. 本邦での生活状況

前期研修は高木農園で他6名共に寮生活でした。文化や習慣の違いや，個人主義から集団主義に移り変ることは大変でした。研修生の皆さんやパートのおばちゃん達の励みの言葉に答え1年間の研修を無事終える事が出来ました。

後期はミウラ・メリクロンで，他1名の社員と生活しました。又ここの社長さんはブラジルへ何回も行って，ブラジル人の性格を良く知っておられるので，私の行動を良く理解してくれました。又社員とパートの人達と親しくなりました。ミウラ・メリクロンにいる時，三重県のスズカ洋蘭に行かせてもらい，日本に来て初めて，日本人家族と生活する事になりました。ここでは家族同様に扱ってもらいました。

この1年半，激しい消費社会の中で体験でき，同世代の日本人がどんな考えをしているか知ることが出来て，1年半前の自分とは随分違うと思います。又病気もケガもなく，健康な体で帰国できるので本当によかったと思っています。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前，もっと研修受け入れ先の具体的な情報が得られていれば，もっとくわしい計画を立てることができたと思います。

又今後も，一人でも多くの人が日本で学べる様末長くこの制度を続けて下さることを心から望んでおります。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

幼い頃から日本へ行くのは夢でした。昭和59年3月31日，日本の春にその夢はようやく実現しました。国際協力事業団第14回移住者子弟技術研修生として日本へ行く事になりました。あれから間も無く1年半立ちました。

振り返って見ると，最初は，果たして自分は1年半も耐えられるかと不安を持っていました。でも今は18ケ月日本で生活をして，月日が立つのが早くておどろいています。

日本へ来て自分の研修目的の他，日本の文化，歴史，日本人の考え方，又は同世代の人達がどうしているか，自分の生活状況なども知る事が出来ました。さらに日本の家族の状況なども知る事が出来ました。

日本の四季も体験出来，自分に取って秋の紅葉，冬の雪などは生まれて初めて見たもので，印象に

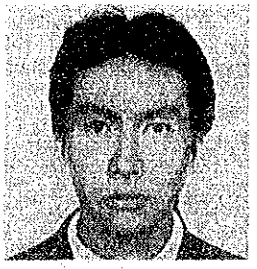
残っています。

この日本での研修は楽しい事が有り，涙が出る程ど辛いことも有りました。けれどそれがいい経験になり，これから国へ帰り営農して行く時に力になり自分のためになると思います。

私は帰国して先ずは，日本で学んだ事をブラジルの困難な状況に合わせ，その技術を取り入れ，ブラジル人又は南米の人達のために役立ちたいと望んでいます。研修中にいろいろな人達と知り合い友達も出来この関係はここで終らせたくないと思っています。

最後になりますが，国際協力事業団の方々，広島の高木誠作社長，神奈川の三浦二郎社長，三重県の藤田三様，その他の皆様へ心から感謝申し上げます。又日本の皆様へ又会う日まで。

ATE' O PROXIMO ENCONTRO



斉　藤　昭　典（ブラジル　カストロ）

1. 研修機関　宮城県岩沼市のそ菜農家

(1) 前期　トマトときゅうりの温室栽培（宮城県岩沼市）

(2) 後期　露地野菜（北海道中川　幕別町相川）

とうがらし，大豆，山豆，金時，トマト，小麦

2. 研修期間　昭和59年4月～60年9月

3. 研修職種　農　業（そ菜）

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

日本の農業。又農業以外広く経営を学ぶ。日本の歴史，文化，習慣を知る。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期は宮城県岩沼市寺島字南瀬崎でトマトときゅうりのハウス栽培を1年研修しました。

昭和60年3月からは岩沼市南長谷字樋，菊地光雄さんの農場でしいたけと露地野菜も勉強をさせてもらいました。

最初は日本の生活に慣れるのに大変でした。特に東北の方言はむずかしかった。温室で仕事をするのは初めてだったのでどんな事をしたらいいのかわかりませんでした。2ケ月たつとだんだんわかってきました。土作りから収穫までです。土壌消毒，播種，育苗管理，培木，施肥，定植。そして収穫まで，温度管理とかん水は毎日の仕事でした。

6月からは北海道の畑作農家で研修しています。ここでは希望したじゃがいも栽培も見ています。しかし，じゃがいもについては研修期間が短くてまだまだ学びたい事が多く残っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

今までの農業研修でいくつかの作物の栽培技術を学ぶ事ができました。農業以外の経営も勉強したかったのですが農家での実習生活の中ではその機会がありませんでした。

日本の歴史，文化，習慣についてはそれぞれ少しずつしる事ができました。

7. 合同研修会について

僕くにとって非常に有意義でなんだか家族と会えるような気がしました。南米のいろいろな国からの研修生とはそれぞれの国のことば，生活，文化などを勉強できました。それから研修旅行，飲み会，などはとても楽しくて私にとっては最高の思い出で大切な宝物です。それぞれの国へ帰ってもまたいつかは会える日が楽しみです。

VALEU PESSOAL!

8. 本邦での生活状況

日本はとても安全で生活しやすいと思いました。非常に便利にできていて買いたい物は買えるし，行きたい所に行けるし，食べたい物は食べれます。しかし物価は高いと思います。

POR ISSO E' BOM SEGURAR GRANA, SEUS MÃO DE VACA!

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これから来る研修生は日本語をよく勉強してから来た方がいいと思います。日本語を読めると日本の本などから多くの事を学ぶ事ができると思います。こんなチャンスはそんなにないので見た事，勉強したい事をはっきりすること。それから自分が希望して学んだ事はとても大切です。目的をはっきりする事がよいと思います。

MAS E' BOM PASTAR DE VEZ EM QUANDO

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

第14回移住者子弟技術研修生として，ブラジルを発ってからもう早1年半になります。とても短い期間でした。日本は勉強の機会が多い国なので滞在期間を延ばしてもいいと思います。そしてもっと勉強になる事と思います。

国へ帰ったら日本で学んだ多くの事を役に立て，農業にできるだけいかしたいと思います。日本でできた友達は一生忘れる事はないでしょう。

ブラジルへ帰っても多くの友達を作って力を合わせて農業をやりたいと思います。又農業，工業，政治などを正義なやり方でどこにも負けない作物を作って頑張ります。

MUITO OBRIGADO A TODOS!　　BOA SORTE!

井伊博之ミルトン（ブラジル　サンミゲール・アルカンジョ）

1. 研修機関

(1) 前期　宮口園ー昭和59年5月～7月（田方郡中伊豆町）

木下養鶏ー昭和59年7月～11月（浜北市）

青島農園ー昭和59年12月～昭和60年2月（静岡市）

(2) 後期　伊藤牧場ー昭和60年3月～5月（富士宮市）

静岡県畜産試験場ー昭和60年6月～9月（富士宮市）

2. 研修期間　1984年4月～1985年9月

3. 研修職種　水稲，山葵，養鶏，柑橘，乳牛，肉牛

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

日本の優れた技術の中で落葉果樹の栽培と畜産（肉用牛）の管理の勉強をしたいと思っていました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

私は静岡県国際農友会々員の農家で実習を行う事になりました。

昭和59年5月から7月の間，田方郡中伊豆町にて，主に稲の苗の作り方の勉強をしました。種の消毒，目出しに温室に入れ，畑（田圃）に植付けなどの作業をしました。又，畑作り，稲の病気，水の管理の勉強をしました。

昭和59年8月から11月の間，浜北市で採卵養鶏経営管理を学びました。

ひなの管理，飼料の研究，病気と予防注射，卵の出荷などの実習を行いました。

機械，コンピュータの導入が多い事と糞尿の処理が大変との事を感じました。

昭和59年12月から昭和60年2月の間，静岡市で柑橘類の農家に実習を行いました。短かい期間でしたし，ちょうど収穫の時期だったため，それを中心に勉強を行いました。

青島温州，早生温州，甘夏ミカン，ネーブル，森田温州などの収穫，貯蔵，選別，出荷の作業をしました。又，静清市場に2回見学に行き，生産者と共に新潟県でみかんのキャンペーンに参加させてもらいました。

出荷方法とか販売者，消費者はどんな果物を求めているかをわかりました。

昭和60年3月から5月の期間，富士宮市の酪農家で乳牛経営管理の実習を行いました。そこで乳牛の飼料の与え方，サイレージの作り方（夏場），放牧と牧草地の管理，人工受精については発情の発生から種付けも学びました。

共同経営（大型機械，パーラ）の勉強もしました。

昭和60年6月から9月の間，静岡県畜産試験場に研修を受けました。4ケ月間主に肉牛部にお世

話になりました。

牛の肥育，病気（衛生検査，薬浴，治療），飼料の計算と分析，牛の審査などの実習をしました。

人工受精については精液採取，受精卵分割と移植，そして家畜全体的，国際的の将来にともなう問題点と見込みなどの講義も受けました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私の場合は，研修先は国際農友会から指定されました。ブラジルから来た時，望んでいた落葉果樹はこの1年半の間に残念ながら勉強できませんでした。

酪農は10ケ月間実習させてもらいました。

又，希望を出していなかった事（養鶏，柑橘）も7ケ月間実習しました。経験としてはプラスだったと思います。

7. 合同研修会について

研修期間中，みんなと会える事はとても楽しかったです。

研修生全員と話し合い，アドバイスしてもらったり，共にいろいろ活動，旅行を出来て一つの言葉にまとめれば「最高」だったと思います。

8. 本邦での生活状況

この18ケ月間の大部分は農家実習の形で家族と一緒に生活し，親切にしてもらいました。日本の習慣もそのお陰で，一足早くつかむ事が出来ました。

そんないい面もありましたが，思うように自由がなく，時々苦労しました。

畜産試験場では寮で一人暮らしで管理は大変でしたが気楽で自由があってよかったと思います。

その他，いろいろと便利（電車，自動販売機）な代わりに物価が高いと思いました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前，1ケ月間講習会を受けてよかったと思います。又，来てすぐ海外移住センターに1ケ月間日本語の研修もとても役立ちました。

そして研修生の希望に近い受け入れ先をさがしてもらいたいと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

日本に来るのは幼い頃からの夢でありました。先進国の一つと言われている日本に来てすぐ，機械とか人間が多いのに治安が安定していてこの生活に慣れるのは問題ありませんでした。

日本の優れた技術も身に付け，経験を重ね，いい勉強になりました。帰国後は一人でも多く日本で学んだ事を伝えて，頑張って役立ちたいと思います。

最後になりましたが国際協力事業団，国際農友会の方々，及び先生方，18ケ月間大変お世話になりました。御礼申し上げます。今後もヨロシック！

鈴　木　芳　夫（ブラジル　アチバイア）

1. 研修機関　(1) 前期　神奈川県園芸試験場
愛知県西尾
三重県津市赤塚植物園
(2) 後期　観葉植物，花卉

2. 研修期間　1984年　4月～1985年11月
1984年　4月～1985年　3月　神奈川県
1985年　4月～1985年　7月　愛知県
1985年　8月～1985年　9月　三重県
1985年10月～1985年11月　愛知県

3. 研修職種　花　卉

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

当初の計画としては，ブラジルでは自分の家では観葉植物栽培をやっておりますので，国際協力事業団の研修生として日本の観葉植物と栽培について学びたいと思いました。土壌とか病害について勉強をしたいと思いました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

日本には昭和59年4月4日に着き，国際協力事業団海外移住センターにて1ケ月間日本語及び国の文化について研修を受けました。僕にとってこの研修はとても役立ちました。

昭和59年5月7日から1年間，神奈川県園芸試験場で特にカーネーションとバラの栽培について研修を行いました。

5月はちょうどカーネーションの定植時期でした。7月には初めての土壌をし追肥も行いました。8月にはカーネーションの花の出荷時期でしたが，がく割れが多く商品になるのが少なかった。9月，10月には温度も低くなりがく割れも少なく商品価値のわる花が出るようになりました。12月，1月，2月，3月は寒さが厳しく花上りが少なかった。

バラでは出荷，植え込み，フォルモンサイ試験を主にやっていました。さし木，接ぎ木，移植，管理，そして，鉢物の試験を主にやりました。シクラメン，ハイビスカス，マリーゴールド，ラナンキラス，アルストルメリア，スイトピー，シネラソア，サルビア，プリムラ，山ユリ，アネモネ，草花の種まき，鉢替え，定植，などの特性調査もやらしてもらいました。色々な技術を学ぶ事が出来，また生産農家の見学を研修の中に入れていただき，勉強が出来ました。

4月からは愛知県のナンヨウ花園という農家で観葉植物について研修を受ける事になりました。この農家で観葉栽培とは広い面積をかかえ，また多くの品種を作り，とっても勉強になりました。新

品種の植え込み。色々な観葉について栽培について勉強になりました。

8月は三重県赤塚植物園で研修を受けました。ここではドラセナが多くて毎日植え込みでした。ミニ観葉がとってもかわいです。毎日出荷もやりました。とってもいそがしいです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私の研修計画としては，観葉植物の栽培について計画をたてました。そして研修先は切花になりました。1年間は切花でした。その研修を受けました。6ケ月間は観葉植物の研修を受けました。また思った以上に多くの品種とまた見学する事が出来ましたので大変勉強になりました。

7. 合同研修会について

合同研修会や研修旅行では皆なと会える事が出来てとっても嬉しかった。意見交換などで色々な国の人達と知り合い，また，日本の文化や歴史についても勉強が出来，ほんとうに嬉しく思っています。

8. 本邦での生活状況

日本に来る前に想像していたよりも生活しやすいと思いました。日本では食物はとっても高いと思っていましたけど，もらう給料もそれなりにびったし。ブラジルでは人の給料はものすごく少なく，食物だけが安く，その他の機械などは日本と同じかあるいはそれよりも高いと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

○日本に来る前に日本語の勉強をしてきた方が良いと思います。

○国を出る前に少しでも多く自分の研修先の情報を得ることが出来たら良いと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

日本で学んだことをなるべくブラジルで生かす。僕くが学んだことは自分のためにだけではないように，皆なのためにがんばってみたいと思っています。国際協力事業団の皆様，ほんとうにありがとうございました。おかげ様で無事終了式をむかえる事ができました。繰り返し心からお礼申し上げます。

丸山　　アリセ（ブラジル　イビボラン）

1. 研修機関　(1) 前期　衛愛会おしまコロニー
　　(2) 精神薄弱者更生施設　北の家学園
2. 研修期間　昭和59年4月～60年9月
3. 研修職種　身体障害児福祉

ブラジルでは，大学へ行きながら敬老施設，貧民街，精神病院へボランティアとして通い，レクリ

ェーションをやっていました。体育大学を卒業しようとしていた私にとっては，日本へ研修に来るのはとてもいいなあと思いました。日本は進んでいる国と言われていて施設に働いた事のない私には，いい経験になるのを期待して勉強しに来ました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期研修　　59年5月8日～60年3月

日本での福祉，医療，教育を，精薄施設へはいり精薄のためを思いながら学びました。

＊おしま学園（児童居定員）　100名

目的としては，種々の障害を持つ精神薄弱児を児童の能力及び適性をてき切にのばし，将来社会で自立する。必要な諸技能を生活訓練を中心に指導する。

＊道立七飯養護学校おしま学園分校

＊第二おしま学園（第二種自閉症児居住）　　40名

基本的な生活習慣を身につけ，各々の能力及び状態に合わせ，各種療法，生活指導，学習活動，家族治療などを行ない，心身共に健全な人間性の育成を図ることを目的としていました。

＊ゆうあい養護学校高等部

＊つくしんぼ学級（幼児）通園　　30名

障害幼児を毎日通園させ，行動の改善と発達を促進する。

＊函館青年寮（授産施設）　　70名

卒業者に指導訓練を受けさせ，働くことを通して生きがいを感じ，庇護された環境の中で社会人としての自己実現をはかる事を目的としていました。

＊明生園（女子更生）　　100名

作業訓練，クリーニング棟，手工棟，パン工場などを行ない生活指導にも参加していました。

＊新生園（男子更生）　　100名

生活指導及び職業指導を行ない，窯業棟，木工棟などを身につけさせていました。

＊侑愛荘（高令者）　　80名

能力及び体力にあった作業をやり，地域住民との交流を深めることにより，高令者に生きがいを感じさせることを目的としています。

後期研修　　60年4月～8月

＊精神薄弱者更生施設　北の峯学園　　128名

そこでは精神薄弱者を入所させ，必要な保護とそれぞれの特性，能力に応じた生活指導及び作業訓練を行ない社会自立を目的としていました。

生活指導の目標は衣服，食事，排泄，清潔など身辺生活の基本的な習慣，集団生活への自主的参加，社会への適応性を養うことに力を置き，また職業指導においては，職業生活に必要な基本的な知識や

技能を習得作業や実習を通して，その仕事においての自分の役割を知り，協調と責任を重んずる態度を養成する。作業では，北の峯学園は，レストラン，茶房，木工，農耕，窯芸等などで園生達と共にやっていました。

作業でのリハビリと言う目的は十分にでき，生活実習も見て働き，1年間の成果は少し足りなかった部分もあるが，園生との接し方では満足のいく体験をしました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私がやりたかったのは体育を利用したリクリェーションでしたが，勉強している間に一つの生活，作業訓練も大事な体育であり，子供達にとってほんとうの教育になったと思っています。

7. 合同研修会について

いろんな所へつれていってもらいました。その中で印象に今でも残っているのは，日光で見た滝でした。自然の中を歩きながらカメラは，みんなに思い出を残しました。今からさきも同合研修は必要と思います。みんなで話し合える仲間はこの研修会から生まれました。

8. 本邦での生活状況

日本での生活は一人一人の性格によってかわります。私は，友達をつくるのにも苦労はしませんでした。特に北海道はいろんな所から集まって来た人達が住んでいるせいかもしれないけれども，みんな知り合った人とは仲良くなり，自分の心を開けながら話せる人ばかりでした。なにかわからない事があるとちゃんと親切になんでもおしえてもくれました。又，日本へもどって来ることになった場合は，北の国，北海道へ行き生活してみたいと思います。

みんなには，ほんとうにお世話になったと思っています。今度は，私がみんなにお返しする時だと思います。今まで勉強し，お世話になった分だけブラジルへ帰りみんなにもつくしたいと思っていますのでがんばります。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の1年半の研修はもう来た時から全部きまっていたようで，その間にちがう所へ行きたくても行けなかったのが少し満足だったに，たりなかった部分がありました。でも行った所では全力をつくしたと思っています。

今度から来る研修生達の場合，出来るかぎり研修生にえらばせてほしいと思うのは，1年間と言う期間は，もう大分仕事にもなれ，やっぱりこれをやりたいと思う事がいろいろあらわれ，自分で場所をさがしながら見つけだせると私は信じています。

親戚の所へも余り行きませんでしたが，できるとしたら，研修は2年間は少なくても必要だと感じました。少しわがままだと思いますが，よろしくお願いします。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

今，ふりかえって見るとあとにのこした物はもう一生手にいれられないほど大きな思い出，楽しか

った日々でした。

先にどんな事がおきようとなんでものりこえられそうな気持ちばかりです。今，帰ってすぐ仕事がみつかるかはわかりません。一生懸命がんばりたいと思います。

こんなにも1年間が短かい日々だとは思いませんでした。でも1年間で出来た友達は，私の人生一生かけても，心からきえる事のない人達ばかりです。

みんなには，どんなにめいわくをかけ，お世話になった事かわかりません。ただいつまでも約束出来るのは，一生の友情です。

おしまコロニーの皆様，特に子供達，ありがとうございました。私はしあわせでした。北の峯学園の皆様にもほんとうにお世話になりありがとうございます。

北海道市部の方々にはよく心配をかけすみませんでした。海外移住センターの皆さん，女子研修センターの皆さんどうもありがとうございます。日本では，みんなにお世話になるだけでしたが，その分だけ私が勉強したのをブラジルへ帰っても生かしながらがんばりたいと思います。

第14回生の子供達にも，私はいろいろと教わり，けんかする時もあったと思うけれども今にしては，本当にいい思い出ばかりです。

国際協力事業団があってこそ，私はこうして日本へ来る事が出来て勉強できたと思います。これからもたくさんの研修生をよんで日本の良い所も悪い所も全部見ながら勉強させて下さい。当本にお世話になりました。心をこめてありがとうございましたと言えます。

“MUITO OBRIGADO”

鈴　川　宏　道（ブラジル　バルゼア・アレグレ）

1. 研修機関　(1) 前期　よしわ鶏卵株式会社，株式会社㈱なみ
　(2) 後期　山口県大島柑橘試験場

2. 研修期間　84年4月～85年9月

3. 研修職種　養鶏，果樹（ミカン）

4. 当初の研修計画（テーマ　研修内容等）

私がこの研修に参加したのは，ブラジルでは，養鶏と果樹の栽培をやっておりますので農業自体に大変興味を持ってJICAの研修生として日本集約的農業を学びたいとの計画でした。

また農業だけではなく，日本のいろいろな事を学ぶため，ブラジルから研修生として日本へ来ました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

① 期間　1984年4月－5月上旬
　場所　海外移住センター（横浜市）
　内容　日本語，日本文化，地理，歴史などを学ぶ。

② 期間　1984年5月－12月
　場所　よしわ鶏卵株式会社（山口市）
　内容　養鶏

養鶏の中で，ブロイラーと採卵鶏の研修，また鶏病，養鶏場の衛生管理（予防注射，ワクチン，解剖，プログラム），飼料の研究と分析，卵の試験，産卵の研修，環境による密度などの研究をしました。

また，広島県の株式会社マキタ養鶏を見学しました。

③ 期間　1985年1月～3月
　場所　株式会社　㈱なみ（福岡市）
　内容　養鶏（ひな）

ここでは経営管理を学びました。主にひなに良いスタートを与える，ひなの衛生，移動，ワクチネーション，コリーザ，ボールバックコンビ，卵の出荷などの実習を行ない，養鶏団地の共同経営も勉強しました。

④ 期間　1985年4月 ～ 9月
　場所　山口県大島柑橘試験場（山口市）
　内容　果樹（ミカン）

ことでは，柿の剪定，接木，摘果，貯蔵，芽接，花の調査，摘蕾，受粉，葉果比の調査，病害虫防除などを勉強しました。

また柑橘の生理・生態，隔年結果，防止対策についての講習会に参加させてもらいました。

このように，いろいろな果樹の栽培に接する事が出来たので果樹に対する幅広い知識が得られ大変良かったと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画としては，養鶏と果樹の研修，を半年と1年のそれぞれの期間で行う予定でしたが，養鶏の研修期間が長くなってしまったため，果樹の栽培の研修期間が短くなってしまい，少し勉強不足になりましたが，両方の研修先で大変熱心に，また家族の一員として暖かくしてくださったので，しっかり学ぶことが出来ました．これもJICAの皆さんをはじめ，思っていたよりも良い研修が出来たと思います。

7. 合同研修会について

合同研修会は，私にとって楽しい思い出となり，いろいろの会話，相談事について話し合う機会を持つことが出来た。

その時には，日本全国に散らばっている研修生仲間がうれしそうにポルトガル語，スペイン語，日本語を混ぜた言葉で話す。そして皆んなと顔を合わせるのが一番の楽しみでした。これらの合同研修会が行われることはとても良いことだと思う。

8. 本邦での生活状況

1年半の日本での研修生活ではいろいろ良かった事，困った事等たくさんありましたが，あっという間に終ってしまったような気がします。病気もせず，食事もおいしいので，元気で頑張りました。

しかし，日がたつに連れて友達も増えて毎日がとても楽しくなり，仕事が終ったあとではサッカー，ソフトボール，バレーボール，スキー等のスポーツを楽しんだり，日曜日には県内の留学生や研修生達と観光地を見学したりして，とても楽しい毎日を送る事が出来ました。休みは回りを案内してもらい，又いろいろな人達に紹介してもらい，友達が出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからの研修制度の期間を2年間ぐらいにしてほしいと思います。

日本語を出来るだけ多く勉強してから来ると良いと思います。

海外移住センターで，日本についてのいろいろな勉強を教えてもらいたい。

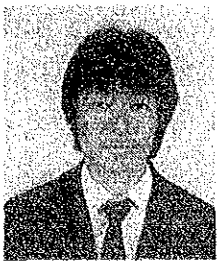
10. 所感（帰国後の抱負を含め）

この1年半について，いろいろな事の研修や勉強をしました。養鶏と果樹の作り方を主にして学ぶ事が出来ました。日本で学んだ事は出来るだけブラジルの皆さんに伝えようと思っています。日本の農業だけではなく，日本の文化，歴史，経済などのことについて少しでも話してあげたいと思ってい

ます。ブラジルへ帰ってから兄弟と協力して農業をつづけて，日本で学んだ事を実現するつもりです。米作りと柑橘は一人で作るつもりでおります。

この研修で，いろいろな勉強が出来ました。

最後になりましたが，1年半お世話をしてくださいました，JICA，よしわ鶏卵株式会社，大島柑橘試験場，皆様方に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



黒　木　恭一郎（ブラジル
クリチーバノス）

1. 研修機関　(1) 前期　昭和59年5月7日－60年5月31日
神奈川県園芸試験場　神奈川県中郡二宮町二宮1217

(2) 後期　昭和60年6月3日－60年9月21日
愛知県豊川市牧野町五反761　長坂農場

2. 研修期間　昭和59年4月～昭和60年9月

3. 研修職種　花卉

4. 当初の研修計画（テーマ　研修内容等）

僕は国際協力事業団第14回生移住者子弟技術研修生として花栽培技術を第一の目的で日本へやって来ました。もちろん，専門的な技術を身につけると言うことではなく，僕も日本人の子供として両親，または日本人のフィロゾフィーを知るためには，両親の生れ育った国を自分の体で日本の文化そのものにコンタクトし，学ばなければ一生日本人のフィロゾフィーが納得出来ないだろう。

そして自分も一人前としてブラジル社会へ出て行くためには，一度でもいいから親元を離れ，新しいところでいろんな人や意見にコンタクトし自分を試しながら，人間的，専門的にもレベルアップしたいと思っていました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期－昭和59年5月－昭和60年5月までは神奈川県園芸試験場研修をさせていただきました。この研修先ではカーネーションを専門的勉強しました。5月に僕が入場した時は去年のワンサイクルを終え，最終の収穫と調査をして方寸作業が行われていました。その後，6月に入ってから新年度の植え付け用意がスタートしまして，自分の基本的な苗作りからの勉強が始まりました。試験のため各品種によって（肥料，土壌，消毒，薬剤散布）などの濃度や方法を変えて栽培を行いました。その結果は土壌検定，収穫後に行った調査で具体的なことが判ります。土壌検定についてはECメーター，

ＰＨメーターを使用して地力とＰＨを知ることが出来ます。そして検定の結果について追肥日，肥料の濃度が判るので，とても良くて，便利で失敗率が低い方法でとても興味がありました。定植前の土壌消毒は３つの方法に分けて行いました。第一はクロールピクリンと言う乳剤を30cm^{2}当たりに３ｃｃ～５ｃｃの濃度で使用され，日本でも効果的な乳剤と言われています。次に使用されているのが蒸気土壌消毒で８０℃～１００℃の蒸気，およそ一時間ほどで無菌状態となります。しかし，この方法は効果的にあまり好まれてはいません。そして最後にガスタード粉剤を2.4m^{2}当たりに７０ｇを使用しました。試験のためにほかの薬も試して見ました。サイロン2.4m^{2}当たりに１２０mℓ乳剤，メチールブロマイド１m^{2}当たりに１００mℓガス。この中でメチールブロマイドは害が出まして，カーネーションには使用出来ません。９月には収穫が始まり，色々な調査の結果もノートに記入しまして，調査後のカーネーションは小田原市場へ出荷しました。当場では，カーネーションだけに拘わらず，様々な植物を勉強させていただき，とても良い体験となりました。県内，又，県外の見学に案内してくださって，当場で以外なものが沢山身につけることが出来てとてもうれしく思いました。

後期は－昭和６０年６月～９月まで愛知県豊川市スプレー菊の農家で実習しました。

この農家はスプレー菊を専門に栽培しておられました。わずか４ケ月の実習でしたけれども皆様が温かく指導してくださったため沢山の技術を身につけることが出来ました。

僕が入った時は，前サイクルが後ってサイクルの植え付の用意をしました。まず，ＤＤと言う乳剤で消毒をして，ベッドを作ります。そして，ジェム，ホマロ，クリスタル，ドラマチック，カナリア品種を定植しました。自家では菊栽培をやっていますが，すべてがハウス栽培なので，この農家では露地による栽培も行われていましたので，僕にとっては新しい技術も体験することが出来ました。

菊の３本立て，二度ぎり栽培などについて大変興味的でありました。しかし，９月研修が終えるまでには自分が植えて管理した花が収穫出来なかったので本当に残念だと思いました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画では花卉栽培にかかわらず，農業について広く研修したい目的もありました。日本へ来る前第８回生の岩崎先輩が色々な面でアドバイスをしてくれましたので期待をかけて来ました。実際に見た日本の花卉栽培技術は期待以上な成果でありまして，大変プラスになったことを心から確信します。

7. 合同研修会について

入国して初めて知り合った同期の研修生達ですけど，横浜のセンターで一緒に１ケ月間の日本語講習を受けすっかり友達になってしまいました。その後合同研修会は３回に限られていましたけれども皆，また会える日を楽しみにしてそれぞれ研修先へと向かって行きました。この合同研修会はお互いの悩みや日本人に話しても判ってもらえなかったことも話し会う機会として大変お互いに力付け合って再び研修先へ向かうことが出来ました。

8. 本邦での生活状況

前期の1年と2ヶ月は横浜にある移住センターで生活しました。日本での生活は初めてなのですこし不安に思われましたが，同じラテンアメリカから来た7人の研修生と一緒に生活出来てとても心強かった。研修先へも同期の鈴木君と一緒にラッシュしました。朝は6時におきて、朝食もしないで行ってしまう日も多かった。昼食も僕の口に合わなく大変苦労もしましたが，試験場ではベースボールをしたり皆さん，大変親切にしてもらい思い残すことはありません。センターに帰ったら友達と一日のことを話し合いました。休日の日は自由でしたので買物や見物に行ったり，パーティを楽しんだりしました。時にはお祭り騒ぎをして注意されたこともあります。後期の4ヶ月間は一人で生活しましたが、特に困ったことはありませんでした。日曜日にはおじいさんと釣りに行ったりして，僕の楽しい研修生活でありました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本で研修するならば出来るだけ日本語をマスターする必要が大切だと，この研修を終えて思いました。なぜならば，日本語が読めますと，新聞や又，専門的な本が大変役に立ちます。専門的な勉強も大切と思います。せっかく日本まで来たなら日本語もしっかり勉強してください。日本以外な国で日本語を学ぶと言うことはとても難しいとこの一年半の研修を終えて思いました。研修内容に頑張り，帰国しても自分だけのものにせず一人でも多く，日本で身につけた技術や文化などを伝えてください。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

一年半の研修を終えた自分をふり返って見ると，日本で学んだ専門的な技術をどの様に生かしたら良いかを考えさせます。日本は狭い土地であり，いかにもより良い品物を出荷するためにいつも新しい技術を取り入れることを強調している。

自動化された栽培も多かった。技術的な道具もそろってとても便利だと思いました。この様に様々な技術な面でおくれているブラジルです。でも日本の発達した技術を研修して思い残すことはまったくありません。

栽培について基本的には同じだと思いますので，帰国後も，日本で学んだ成果をぜひ生かしたいことです。又，ブラジルに住んでいる日系二世，三世達にも，専門的なこと，日本文化，そして広く日本での研修のすばらしさを伝えて行きたいと思っています。

最後になりましたが，国際協力事業団の皆様をはじめ研修先の皆様，そして同期の研修生達。

一年半本当にありがとうございました。

正　岡　とも代（パラグァイ
アルトパラナ）

1. 研修機関　(1) 前期　高知県果樹試験場
　　(2) 後期　　同　上
2. 研修期間　59年4月～60年9月
3. 研修職種　落葉果樹

4. 当初の研修計画（テーマ　研修内容等）

日本で行なわれている落葉果樹栽培樹体管理，果実管理，授粉，摘果消毒，整枝剪定，接ぎ木，などを学ぶことでした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

高知県果樹試験場は，総面積 8.2 haで，柑橘及び落葉果樹の栽培試験場で，栽培管理科，柑橘科，落葉果樹科の3科で研究業務にあたっている。

私は，落葉果樹科で栽培技術の実習及び研究補助をしながら研修を行なった。

落葉果樹の仕立方

日本の落葉果樹は，一部（クリ等）を除いては，集約栽培で，樹形が整っている。樹の仕立方（カキ，クリ等）と棚仕立した，ブドウ，スモモ，キウイフルーツ等に分かれているが，中間的（低木）な仕立（ウメ，モモ等）も一部みられる。何れの場合でも主枝数は，2～4本程度に整理されており，日当りのよい樹形となっている。

棚仕立の場合は，労力，資材が多く必要であるが，果実の品質が均一で，風害等に強い。

立木仕立は樹形が高くなり，整枝剪定，摘果，防除等の作業能率が悪い。

落葉果樹の結実管理

現在栽培されておる落葉果樹の多くは，他花授粉のため，他種の混植による自然交配が望ましいが，結実の安定，果実の品質向上などから，ナシ等では人工交配が実施されている。

人工交配の方法

葯の授取に開花，直前の花をとり採葯器で，花の葯（花粉の入ってる袋）を落し，葯のみに選別する。花粉は自然開花に近い程度のものが多く，発芽率もよかった。

開葯および花粉の採取＝開約採取した葯をうすく並べて定温器に入れて28～30℃の温度を加え，開葯（15～20）時間）し集めた花粉は乾燥剤を入れて冷蔵庫で貯蔵する。

交配＝採取した花粉を，筆等で，ていねいに交配する（開花後・1～2日以内）。交配作業の前に必ず花粉の発芽試験を行ない。発芽率25％以下は好ましくない。

交配をした果実は，5～7日位で肥大を始め，結実が確認出来る。

人工交配の効果

交配を行なった果実は，種子が確実に入るため，果実の果実の肥大は良好で，変形果が少なく，玉揃がよく，品質が向上した。不完全甘柿では完全に種子が入り，シブ果はみられなかった。

摘　果

自然落果のみでは，結果調節（連年結果）が出来ないので摘果が重要な作業となる。摘果は，種類によっても多少のちがいはあるが，和ナシでは，交配後，20～30日間に終えると効果が高かった。またキウイフルーツでは結実直後，早い程，効果が高かった。摘果の程度は，それぞれの種類，品種の基準と，樹の状態のみ決めることがポイントである。

接ぎ木

各種類についての接ぎ木の時期と方法，材料の利用の仕方について，実習で修得した。

施肥防除

各種類毎の施肥の時期，施肥量，果実の品質などについて研修を行ない，これらが果実の味等の品質に大きく影響を及ぼすことがわかった。

防除では，病害虫と使用薬剤との関係，薬剤の連続散布と病害虫との関係についての資料を収集した。

植物調節剤の利用

和ナシに対するＧＡ３＋７ペーストの利用による果実の肥大及び熟期促進効果の実験結果から，熟期では５～７日程度早くなり，肥大も10～15％程大きくなった。

ブドウに対するＧＡ３利用による無核化及び熟期促進試験では，熟期で７～10日早くなり90％の無核化が得れるなど，非常に経済性が高いことがわかったと，同時に処理技術も修得が出来た。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初私の研修計画は，落葉果樹についての栽培法を学ぶのが目的でしたが，当初考えていたよりも種類品種が多くて，パラグアイで栽培可能と思われる梨，柿，スモモ等を中心として研修をしました。

１年半の研修が終えて見ると，思っていたよりも多くの果樹栽培の技術を修得でき，また梨，柿以外の果樹についてもいろいろと学ぶ事が出来ました。

この１年半を振り返って見ると，月日の流れがとっても早く感じました。

初めの研修計画と実際の研修を比較してみると，思っていたよりもよい研修が出来てよかったと思います。

7. 合同研修会について

１年８ケ月の研修期間中，６ケ月毎に行なわれる合同研修会については，有意義な一時だと思います。

それぞれの期間で，慣れない日本の生活状況の中，専門的な知識や技術を身につけていく際，色々

な問題点や悩みごと，失敗談，研修の意見交換などを，スペイン語やポルトガル語に日本語を混ぜ合わせながら仲間同志と自由に話し合え，ストレス解消となった事は，研修の励みにもなりました。昨年10月の日光への研修旅行では，日本の景色，歴史や文化などを見たり，聞いたりして，少しでも多くの日本を知ることが出来て，よかったと思います。

8. 本邦での生活状況

最初の1ケ月間は，移住センターで日本語（国語歴史）の勉強や，日本の生活習慣などを学びました。

昭和59年5月7日に研修先である高知県果樹試験場での研修が始まりました。果樹試験場から，汽車とバスで約1時間程離れている叔父の家で，お世話になって通うことになり，生活面では，なにかと便利でしたが，日本の生活にも慣れて来ると，通勤の時間がロスに思え2ケ月後近くのアパートを借りて自炊を始めました。限られた時間なので，有意義に使いたく，夜間は週に2回程編物を習いに行きました。

昭和59年7月に同じパラグアイ国アルトパラナ移住地から県費研修生が，こられて一緒に学ぶことになりましたので，よかったと思います。特に同じ立場の研修生で，身近に話し合える機会ができそれが，おたがいに慣れない専門用語を一日使い，精神的に疲れた時などには，思う存分にスペイン語での会話をし，それでストレス解消ができたと思いました。

休みの日は高知県へ来られている研修生や留学生と観光地を見て回ったりもしました。多くの友達もでき，海水浴やスキーに行ったのが楽しい思い出になりました。雪は生れて初めてみました。高知県のよさい祭りの鳴子踊りに参加し，暑かったけどいい思い出になりました。

高知県職員の夏季鍛練行事である卓球大会およびバトミントン大会にも参加させていただき，そのうえ職員達と一諸に食事をしながら日本－パラグアイのことをたびたび話したこともいい思い出になりました。

困った事と言えば，やはり言葉と生活習慣の違いです。たとえば，パラグアイでは，日本語を話す機会は多かったのですが，漢学の読み書きができていなかったことです。又，習慣の違いといえば，日本では頭を下げて挨拶しますが，パラグアイではただ握手するだけなので，最初は頭を下げる事を忘れて，あわてて頭を下げた事もあり，自分でも思わず苦笑することがありました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後の子弟研修生にも，できるだけ1ケ月間の日本語及び生活習慣などの講習を受けたらよいと思います。どんな研修内容でも，日本語は必要なのでよく勉強をしておくこと。できるだけ，研修内容や専門用語を理解しておく必要があると思います。

今後も引き続き1人でも多くの研修生を子弟研修制度により，受け入れて頂きたいと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

研修先であった高知県果樹試験場の皆様方には各分野の知識や技術を教えて頂き，心から感謝しています。また，この機会を与えて下さった国際協力事業団，四国支部の皆様をはじめ担当職員の方々には，お世話になりありがとうございました。

また，父や母の故郷，日本で一年半も研修させていただいたことをとても感謝しております。

幼い頃から日本に来るのが夢だった私にとって，この度の研修は，夢，それ以上のものでした。18ケ月間に日本の四季を体験できた事も良い思い出だと思います。中でも秋と冬がよかったです。秋は紅葉，冬は雪，パラグアイでは見られない美しさでした。私は，自分で体験した事を一人の日系人として学んだ果樹栽培の技術を持って帰り，パラグアイの広い土地を使って日本の農業に負けないよう頑張りたいと思います。

最後になりましたが，国際協力事業団の皆様と高知果樹試験場の皆様のお陰で良い研修，心に残る思い出など一生忘れられない期間を作る事が出来たことを心から感謝させて頂きます。本当にありがとうございました。

上　野　　勉（パラグァイ　チャベス）

1. 研修機関　(1) 前期　神奈川県立川崎高等職業訓練校
　　(2) 後期　東京いすゞ自動車（株）
2. 研修期間　59年4月～60年9月
3. 研修職種　電気工事

4. 当初の研修計画（テーマ　研修内容等）

① 低圧及高圧電気設備設計施工に関する知識を得る事

② 弱電

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

神奈川県立川崎高等職業訓練校の電気科を1年間通い，次のことを習いました。

電気数学，電気材料，電気測定および試験法，電気理論－電気応用－電気機械および修理法，電気法規，電気工事－電気製図－電気設備技術基準，これらから最も電気応用，電気理論，電気測定および試験法，電気機器に力をいれ，習いました。又実技では屋内，屋外配線や電線の接続法や自動制御などを行いました。同校の修了後2ケ月間，電気設備施工矢崎電機（株）で電気設計の実習を行いました。

それ以後，東京いすゞ自動車株式会社で電装係の実習を行なう事になり，当社の特装部で3週間，

新車で電気配線及び装置の取り付け位置も見てサービス部にうつり4課を次の順で回りました車検，ユニット，一般整備，検査。

車検では規定の定に準ずる最低限度の電気装置の状態，又は条件も学び一般整備で色々故障の修理法を学び，ユニットで機器具等の構造を見る事が出来，検査では自動車全体の状態チェック法を学びました。

成果，色々事情が異なり，特に法規やそれらに関する物があったため時間のむだと思う事がありましたが，全部新しい知識に変りありませんので帰国後頑張ろうと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

思ったより事情がちがったのがなによりです。

7. 合同研修会について

大変，大事な機会と思えます。なれない日本の社会に出て色々つらい思いをかさね合同研修会の際にストレス解除が出来，又その日が来るまでと思いがんばるようになります。

8. 本邦での生活状況

1年6ヶ月間海外移住センターで生活し研修先に通ってました通学又は，通勤時間が2時間半かかる時もありましたが帰所後，楽しみの多い毎日でした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前によく当国の事情を知ったうえで，研修科目を選択すべきだと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

安全第一の心掛けに徹底した会社の災害防止との関連は極めて高く思えました。帰国後もこの心掛けを自分の物にしたいと思います。

近　藤　哲　士（パラグァイ　イグアスー）

1. 研修機関　(1) 前期　茨木市農業協同組合（大栄経理学院）
　　(2) 後期　〃　〃
2. 研修期間　昭和59年4月～昭和60年9月
3. 研修職種　農協簿記

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

農協簿記基本概念

農協経理業務全般

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

－研修内容－

商業簿記

I　簿記の基本原理

II　諸取引の処理

基礎概念，取引，勘定，帳簿

1. 現金，預金
2. 有価証券　債権の端数利息，預り，借入，差入
3. 売掛金，買掛金　売掛金元帳，買掛金元帳
4. その他の債権債務　債務の保証
5. 手形　裏書，割引義務の勘定表示，手形の更改，不渡・荷為替手形
6. 引当金　貸倒引当金，品質保証引当金，退職給与引当金
7. 商品　分記法，総記法，三分割法
8. 特殊商品売買　未着品売買，委託売買，受託売買，割賦販売，試用販売，予約販売
9. 固定資産　有形固定資産の売却，建設仮勘定，減価償却（直接法，間接法），無形固定資産，投資，長期前払費用
10. 繰延資産
11. 資本
12. 収益，費用　商品売買益，受取利息，給料，支払利息，未収収益，前受収益，前払費用，未払費用

III　決　算

1. 試算表の作成
2. 精算表
3. 決算整理　減価償却，貸倒見積り，商品棚卸，収益費用の繰延と見越引当金の処理他
4. 収益，費用の損益勘定への振替
5. 純損益の振替　未処理勘定への振替
6. 帳簿の締切
7. 繰越試算数
8. 損益計算書，貸借対照表作成（勘定式，報告式）
9. 財務諸表の区分表示
10. 利益処分計算書（損失金処理計算書）
11. 財務諸表の注記

12. 附属明細書

13. 連結財務諸表

IV 株式会社会計

1. 資本金　設立，増資，減資他

2. 剰余金　資本剰余金，利益剰余金

3. 法定準備金　資本準備金，利益準備金

4. 任意積立金

5. 未処分利益

6. 利益金の処分，損失金の処理

7. 会社の合併

8. 社債　発行，利払，満期償還，買入償還，割賦抽選償却

V 本支店会計

1. 本支店間取引の処理

2. 未達事項整理

3. 内部利益の除却

4. 本支店財務諸表の合併

工業簿記

1. 工業簿記の体質

2. 原価　原価の意義原価要素，種類，態様

3. 原価計算　原価計算の手続他

4. 工業簿記の構造

5. 材料費計算

6. 労務費計算

7. 経費計算

8. 製造間接費計算

9. 部門費計算

10. 個別原価計算

11. 総合原価計算

以上の事を大栄経理学院で学び，これらを基礎に実務研修として茨木市農業協同組合総務部経理課で研修させて頂きました。又，大阪府農業協同組合中央会主催の長期研修（２カ月）に参加させて頂き，法学概論，民法，農業経済概論，農業協同概論，農業協同組合関係法，農業協同組合事業総論，農協経営管理概論など農協職員に必要な基礎知識全般にわたり勉強させて頂きました。

－成果－

農協簿記だけでなく農協職員としての基礎知識も修得することが出来ました。又，全国商業高等学校協会簿記実務検定２級，日本商工会議所簿記検定２級を取得することが出来ました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

最初から実務研修ということで，あまり基礎知識がないまま研修をし，何をしたらいいのかわからず，かなりとまどったりもしましたが，経理学校に行くことにより基礎知識を固め，そして実務研修という形で研修を進めることよりかなり、充実した研修をすることが出来ました。又，最初の研修計画以外のことも学ぶことが出来ました。

7. 合同研修会について

約６カ月に１回という少ない合同研修会であったにもかかわらず，研修生同士，日本での生活，研修内容についてのことなど，数々の意見の交換をすることが出来ました。又，これらを通じ研修生同士の親睦を深める場として最適であったと思います。

各国の研修生たちとたくさんの思い出を作ることが出来たのもこの合同研修でした。

8. 本邦での生活状況

特にこれといってありませんでしたが研修を始めて３カ月位たった頃体調をくずし，１０日間程どの入院生活を送ることになりました。今，思えば少し無理をしたのかも知れません。しかしその後は，自分に合った計画をたて，マイペースでいくことにしました。幸い，その後は風邪すらひくことがないくらいの健康な状態で研修に望むことが出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからも各職種にわたり，１人でも多くの研修生を受け入れて歴史のある子弟研修制度にして頂きたいと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

昭和５９年４月２日，国際協力事業団移住者子弟研修生として６年振りに帰国することが出来ました。４月だというのにまだまだ寒い日だったことを覚えています。初対面の他国の研修生たちと，横浜の移住センター向かう途中，旅の疲れかぐっすりと眠り，気が付いた時は移住センターに着いていました。

数日後，移住センターを後にして，研修先の茨木農協のある大阪に向かいました。大阪に着き友達たちと会った時初めて，今，日本にいるんだという実感がわきました。

４月１６日から，いよいよ茨木市農業協同組合総務部経理課この実務研修が始まりました。

私の場合，最初から実務研修だったのでどのように研修を進めたらいいのかわからず，このまま１年が過ぎてしまうような気がしました。確かに実務的な知識はつくかも知れませんが基礎が出来ていない為，簡単にくずれてしまいそうに思い１１月からは夜の時間を利用して経理学校に行き，基礎を

固めることにしました。又，簿記検定を受験することで自分の実力を試すいい機会にもなりました。

それから，大阪府農業協同組合中央会主催の長期農協職員養成研修会にも参加させて頂き，農業協同組合が他の営利企業とは本質的に異ったものであるということなど農協職員として必要な知識を得ることが出来た事は本当にいい勉強が出来たと思います。

長いようで本当で短かかった研修期間でしたが，この研修期間，自分なりに研修方法を考えたり，パラグアイでは経験出来なかったことを数多く日本で経験することが出来たことなど，自分では十分満足出来た研修であったと思います。又，自分の進む道にも大きなプラスになったと思います。帰国後は農協で実務研修を通して勉強してきたこと，またいろいろな体験全てをいくよう努力したいと思っています。

最後になりましたが色々と御指導して下さいました茨木市農協の皆さん，そして国際協力事業団の皆さん本当にありがとうございました。心から御礼を申し上げます。

谷　　信　一（パラグァイ　フラム）

1. 研修機関　(1) 前期　高知県工業試験場
　　(2) 後期　愛媛県温泉青果農業協同組合
2. 研修期間　59年4月～60年9月
3. 研修職種　農産加工

4. 当初の研修計画（テーマ　研修内容等）

農産加工

オレンジジュース，漬物，しょう油，みそ

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期研修は高知県工業試験場では，分析方法（糖度計の使い方，酸度の測定方法，ＰＨの測定法，漬物，ジャム，山菜の加工法，いちご，八朔，ブドウのドリンクの作り方，ようかん，そしてこれらの色々な工場の見学そして１週間しょうがの漬物工場へ実習にも行きました。

みそはタネこうじの作り方，そして醤油工場に１週間の実習にも行きました。みそと醤油は，自分が病院に入院してたために勉強ができなかったので少し残念でした。そして高知での残りの半年間はオレンジジュースとシロップ漬を学びました。

後期は愛媛県の温泉青果農業協同組合で竹の子の缶詰，ふきの缶詰，ももの缶詰，びわの缶詰，ぶどうの缶詰とつぶつぶジュースを勉強しました。また，会社の旅行にも参加させてもらいとってもいい思い出になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

前期研修は当初の計画よりずっと勉強になったと思います。でも後期はジュースだけを学びたかったのですが，少ししか学べなかったので少し残念でした，でも他の事が学べたので満足してます。

7. 合同研修会について

海外移住センターでの1ケ月間の日本語研修がとってもよかったと思います，これからもぜひ皆んなに1ケ月間の日本語研修を与えて下さい。

8. 本邦での生活状況

今日までで一番困ったのは後期の愛媛県でのアパートにはトイレが1階にはなかった事とシャワーがない事でした。JICAもアパートの事も少しは考えてほしいと思います。

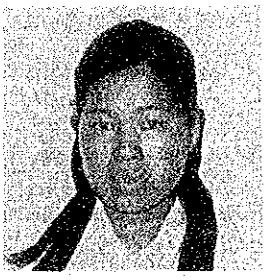
9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

積極的になる事と，あんまり遠慮しない事と何でも笑顔でやる事です。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

僕はパラグアイでは農業協同組合に勤めており，加工の事は何一つ知らないでやって来ました。だから少し心配でしたけど試験場の先生方がとても親切に教えて下さったので，とっても早く覚える事ができました。また，パラグアイへ帰っても同じ所で勤めるので，帰っても日本で学んだ事を生かしていけるか分かりませんが，今まで学んだ事が無駄にならないように僕から積極的に進めていきたいと思っています。

最後になりましたが，日本で1年半たいへんお世話になりました。とくに国際協力事業団四国支部と高知の県庁ならびに高知県工業試験場の皆さんにはたびたびご心配をおかけまして，たいへんお世話になりました事を心からお礼申しあげます。そして半年間お世話になった温泉青果の方々，松山の沢山の友達へ大変いい思い出と勉強になりました。ありがとうございました。



中　野　文　子（アルゼンティン　グレウ）

1. 研修機関　(1) 前期　玉川大学文学部教育学科
　　(2) 後期　　同　上
2. 研修期間　昭和59年4月～60年8月
3. 研修職種　幼児教育

4. 当初の研修計画（テーマ　研修内容等）

移住地内の生活状況から感じた日本語教育，特に幼児期からの日本語指導が大切な時期であると感じ，幼児教育に関する知識と認識を深めたいと思いました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

1年半を通して玉川学園で幼児教育並びに教育について研修を受けました。大学での研修内容は，国際教育室のアドバイスを受けて自分で選択しました。

（前期研修内容　4月～3月）

体育及レクレーション指導，幼児教育学，幼児心理学，児童文化，国語，保育内容音楽造形ⅠとⅡ，保育内容健康ⅠとⅡ，音楽リズム，全人教育論，表現教育の研究

（夏期スクーリング）

教育学演習，教育原理，道徳教育，音楽一般

（後期研修内容　4月～8月）

文章作法，教育原理（幼少），ペン習字，教育学概論，保育内容言語，国語Ⅰ，保育学，児童心理学並びに，週2日小学部見学実習，また，7月7日～7月14日，熊本銭塘小学校見学実習。

（夏期スクーリング）

国語教材研究，図画工作，家庭教育

（昭和60年9月2日～21日）

国際女子研修センターにて，華道，茶道，育児，料理実習，アートフラワー，はりえなど特別研修がありました。

以上の研修内容を通して，幼児教育に関する知識と視野を広げる事が出来ました。

特に体育レクレーションでは，日本のわらべ歌遊びや，ジャンケン遊び，またキャンプ場でのレクレーション指導などを実技しました。幼稚部，小学部実習では，子供との接し方，考え方，受け答えなど，わからない事が多く，子供の見方，感じ方，考え方など，子供達に教えられる事が大きな発見となりました。

熊本銭塘小学校では，玉川学園とちがった面を見る事が出来ました。銭塘小学校では，1年生～3年生のクラスを見学させていただきました。休み時間になると，はだしでグランドに出て遊ぶ子供達を見て，あらためて自然の中での遊びが大切であるが，教えられました。

女子特別研修も，日本の代表的文化である一部を体験する事が出来ました。ハードなスケジュールでしたが充実した最後の研修生活を過すことが出来ました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修計画以上に様々な分野を幅広く学習する事が出来ました。特に幼稚部実習，小学部実習また都外小学校見学実習も出来ましたので，本当によかったと満足しています。

7. 合同研修会について

それぞれ違う研修内容で，日本全国にちらばっている仲間と半年ぶりに再会し，おたがいに研修の事や悩み事を話したりできる場でありました。また自分を再度見直す場でもありました。研修旅行で

は，日本の文化や歴史などに触れる事も出来，楽しいひと時を過す事が出来ました。

8. 本邦での生活状況

始めの所は塾の規則のきびしさに，驚くばかりでした。特に「あいさつ」言葉使いにきびしく上級生や目上の方々には必ず敬語で話さなければいけませんでした。

総長小原国芳氏の全人教育の理念のもとに行なわれている塾教育なのですが，理解するまでに1年はかかりました。月日が立つにつれて友達もふえ，塾教育に関しても少しづつ理解出来る様になりました。

一つ一つの学園の行事そして塾の行事，今までに経験した事のない行事でしたので，色々と勉強になりました。

本当につらい事もありましたが，今では，勉強になったなアーと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

いずれの研修内容でも，ある程度日本語の勉強をしておく必要があると思います。特に幼児教育，日本語教育の研修を受ける方は大学で研修する事になると思いますので，日本語の読み書きも必要としますので，ある程度勉強して来る事が大切だと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

帰国後，移住地の子供達に日本語を教える事になると思います。日本で学んだ事をどれだけいかす事が出来るかわかりませんが，多くの二世三世の日系人の子供達に，日本語や日本文化を伝えて行きたいと思っています。

まだまだ未熟ですが，玉川で学んだ事を土台にして勉強をつづけたいと思っています。

最後になりましたが，国際協力事業団関東支部の方々，玉川大学国際教育室の方々，そして，先生方，皆様方本当に1年半お世話になりました。皆様のお蔭げで，よい研修，楽しい思い出をつくる事が出来た事を心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

中　田　アリシア（ボリヴィア　オキナワ）

1. 研修機関　(1) 前期　東京農業大学
　　(2) 後期　〃
2. 研修期間　昭和59年4月～昭和60年9月
3. 研修職種　生活改善

4. 当初の研修計画（テーマ　研修内容等）

栄養指導を中心に研修を進めて来ました。

大学では講義を受ける他に栄養管理学研究室に属し，栄養調査をした時の目的や集計法，データーの扱い方などを学ぶことができました。

他に２度，東北栄養調査に参加し，沖縄県で行われた栄養士会の学会にも参加させていただきました。このおかげで栄養学に対する興味と知識がより深くなったと確信しています。それから，日本人食生活の基本的パターンに関する栄養学的研究（ブラジル在住日系人についての調査）のデーターを扱い，日本人と南米（ブラジル）在住日系人との食生活を通じて二世から三世の時代の移り変わりがどのようなものかを研究レポートとして作っている所です。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

栄養生理，生化学：健康な成人での栄養の営みについて学ぶ，エネルギー代謝，食品のエネルギー含量と身体的エネルギー消費　摂取に関し食欲や味覚のしくみ，摂取された栄養素が胃，小腸，大腸を移動する間に消化され，吸収される過程，身体がいろいろな臓器の働き，生命活動の基本的な場である細胞について，その構造と機能，とくに生命現象の担い手であるタンパク質，遺伝の担い手である核酸，代謝の担い手である酵素の働き，体内に吸収された各栄養素がどのように代謝（同化）されるか。

病態栄養各論Ⅰ，Ⅱ：病気との関連を学ぶ，肝不全，胆道疾患，胆石症，胆のう炎，膵疾患，腎臓疾患，肥満の全身に及ぼす影響，リポタンパクの代謝，動脈硬化症，冠状動脈硬化症，虚血性心疾患，腎動脈硬化症，大動脈硬化症，末梢動脈硬化症，高尿酸血症

特殊栄養各論：小児から老年，母性，労働，異常環境を学ぶ。"人"として生まれてから成長し，老年者になるまでの生理と栄養を扱う。

食品衛生：食品の変質と防止（微生物による変質，化学的変質）

食品添加物

食中毒（細菌性，有害物質によるもの，自然毒によるもの）

有毒物質による食品汚染（カビ毒，残留農薬）

病　理　学：炎症：腫瘍（新生物）

発ガン性：変異原性→陽性

老化：免疫低下

循環器系：心筋硬塞，狭心症，虚血性心疾患

血管：動脈硬化症，動脈瘤

肺臓：肺炎

消化器系：胃，小腸，大腸

肝疾患：肝炎

実習食品加工：こんにゃくの製造，イワシの油漬，ぶどう酒の製造，栗シラップ漬，びわ缶詰，かま

ほこ製造，牛肉の大和煮缶詰，オレンジジュースの製造，イチゴジャム製造

調理実習：主に日本料理，料理の分類と材料の扱い方，前処理の方法，盛付などをやりました。

給食管理実習：年令，性別，労作別に人員構成を求め，栄養基準量をみたすために食品構成を作り出し献立作成に入り，その後立てた献立表をもとに実際に100食分を調理し，決められた時間内に配膳まで終える，試食後評価をして（栄養量，バランス，食費，嗜好について）次に献立表を見なおし次回の参考にする。

特殊栄養学実習：妊産婦，授乳婦の栄養，乳児期の栄養の献立作成

病態栄養学実習：一般治療食

外科疾患：術前，術後栄養

消化器系疾患：急性胃炎，慢性胃炎，胃アトニー，胃，十二脂腸潰瘍，急性肝炎，肝硬変症，胆石症，急性膵炎

代謝・内分泌系疾患：肥満症，糖尿病，糖尿病合併症，高脂血症，痛風

循環器疾患：貧血，高血圧症，心疾患

腎疾患：糸球体腎炎，ネフローゼ症候群

これらの病気の食事療法

統計実習：ある食事調査をした場合どのような集計法を使用するかなど，ちょっとした調査例をとりあげて度数分布表などを作成し，データーの方法などをやりました。

調理師専門学校：日本料理，西洋料理，中国料理を基礎から学び，それぞれ独特の食品の扱い方や方法などを大分おそわりました。

調　　査：東北岩手県一ノ関，花泉地の栄養査調査

これらのたくさんの事を学び，今ではかなりの満足感があります。100％何でもわかりきっている訳ではありませんが，これからの長い人生の中で少しづつ補給して行ければと思っています。

栄養指導の必要性を深く理解することができ，さらに興味をもつことができとても良かったと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

大学で5月～9月（前期）の間は講義，実習が主で理論や各論を中心に進めていました。しかし食物が体内に運ばれて消化，利用をされる過程を知っていつも，その食品をうまく利用できるかできないかによってその結果も変わって来るのでもっと直接的に食品の扱い方を学びたいということで9月～3月の間は新宿調理師専門学校へ通いました。そのころはかなりハードなスケジュールでしたかとても充実していました。

他に東北（岩手県）での栄養調査に2度参加させていただいたので，目的とか要領をかなり得ることができました。

7. 合同研修会について

私たち23名はそれぞれ違う所から，この移住センターに集まり，知り合ったのは何かの縁だと思います。研修生同志の一人一人に対する感情は　のつながりはなくとも兄弟のような雰囲気があると思っています。それだけに合同研修会，自分には研修旅行がある度みんなに会えるうれしさと家へ戻った安心感から大さわぎをして，注意されることが何度かありました。その時は必らず代表者のかたちで何人かよび出され大目玉をくらうのです。とてもイヤな気持ちだったと思います。全員で気をつければ良いのですが，そうできなかった私たちの考えはあますぎたかも知れません。それにこう言った行動もけっして良いとは言えません，でも私たち人生の中でこのような勝手な行動は2度と経験することはないと思います，だからよけいに事あるごとに思い出されることと思います，本当に迷惑のかけっぱなしでしたがこれからもいい意味での合同研修会が行なわれることを祈っています。

8. 本邦での生活状況

私は最初の1年間はアパートで暮らしていました。そのころは一日のスケジュールがほとんど学校にいることと，あとは週3回講義のあと調理師専門学校へ通っていたので帰る時間が11時をまわるのはざらで，ただ寝るために帰っていたようなものでした。今ではなつかしいのですが最初のころは毎日のお風呂通いがイヤでたまらなかったのがいつの間にか楽しい日課になっていました。

一人で暮らしていると，何かと心細いことが多かったのですがその反面一人で暮らすコツや，あとは家の中でジッとしているよりも出歩くことも多くなって来るため，より多くの物を見たり，聞いたりでき，あらゆる角度から日本人の生活を見ることができたと思っています。

今年の4月からは7月以降の延長した時の事もあって，移住センターに移って来ました。通学時間はラッシュ時で大変な時もありますがその分センターへ帰ればくつろげるのでいいと思っています。それに費用もあまりかからないので助かります。

満員電車，人ごみ，狭い空間での生活，物質の豊かさ，交通の便利，あまり高のぞみをせず，それ以下でもない安定した生活イコール日本の生活のような気がします。実際物質的にはあまりにも便利すぎるため慣れてしまうとこわいものです。ですからあくまで，現実を忘れずに帰国後ハンディがなないように冷静な気持ちでここまで来たつもりです。ですからいろいろと不満としていた事なども，いつの間にか少いながらも理解できるようになったのはうれしいことだと思っています。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本へ勉強に来るには2通りあるような気がします。一つは，あくまでも自分の専門としたことを身につけること，あと一つは日本を知ると言った大きな課題があるのではないでしょうか，いずれにしろ，自分の人生経験の上で学ぶことには変わりありません。そこで問題なのは一年半の限られた期間をどのように生かすかです。できるだけ日本へ来る前に日本語をマスターしていればとくです。そして研修中はJICAの支部の方々にはもちろんですが研修先の方々にいろいろと相談した方がもっと

理解してもらえることもあります。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

5月の初期，研究室の一角に机，時間割表，そして何冊かの本をわたされました。その日，まずは時間割の組合わせをやり，おなかがすいたなと思い時計をみるともう一時をまわっていて，一人で空しく食事をした覚えがあります。あれから17ケ月間の間に講義を受け，実習をやり，調査に参加し，調理師専門学校に通いながら，そして研究室の仕事を時々手伝わさせていただき，最近では理論と実践をかみ合わせて勉強し，やっと栄養指導の必要性がわかってきたところです。あと半年間延長し，病態栄養の実習をしっかりやりたいと思っています。限られたわずかな時間ですが，秋，冬をもう一度過ごし，すばらしい紅葉を見ておきたいです。帰国後は日本のような四季は感じられないと思いますが季節の変わり目には，ここでの生活を思い出し身をひきしめる気持ちでがんばりたいと思います。研修したうちのどれだけを生かせるかは知りませんがマイペースで悔いのない仕事をしたいと思います。

堤　　幸　子（ボリヴィア サンファン）

1. 研修機関　(1) 前期　福岡市医師会看護学校および井槌産科婦人科病院
　　(2) 後期　　同　　上
2. 研修期間　59年4月～60年9月

3. 研修職種　看護婦

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

第1学年（1月期～3月期）

1. 一般教科，専門教科の座学講義
2. 井槌産科，婦人科病院実習

第2学年（1月期～　　）

1. 専門教科の座学講義，演習，浜の町病院実習
2. 井槌産科婦人科病院実習

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

1）一般教科

音楽，英語

2）専門教科

共通：看護倫理，解剖生理，生物，個人衛生，公衆衛生，衛生法規，家事家政，薬理，栄養と食事，看護歴史，看護原理

専門教科

内科疾患と看護法，整形外科疾患と看護法，産婦人科疾患と看護法，小児科疾患と看護法，眼科疾患看護法，精神科疾患と看護法，耳鼻，咽喉，歯科疾患と看護法，皮膚，泌尿器科看護法，放射科，理学，療法，臨床検査

以上の専門教科を２年間で知識を得，そして習得します。

最初は，看護の経験があったにもかかわらず講習の内容がわからないこともあり，また，特に解剖生理では大変悩まされました。けれど，先生方の暖かいお心使いで１学期の期間は，９０分を１時間とした授業を受けさせていただきました。

実習　井槌病院：

分娩見学，沐浴の方法，手術の見学，産婦の看護，１ケ月検診，妊産婦の定期検診，不妊症

２学年では，１学年の時に学んだ事をいかして臨床実習に入りました。実習は，浜の町病院で，疾病の理解とそれぞれ疾病に応じた看護をしていかなければなりません。そして看護をしていくには病気だけをなおせばいいということだけでなくて，精神的な面からも看護が必要だということがあらためて身にしみて感じられます。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修を振り返ってみて，実際に比較してみると思っていたよりも以上に良い研修ができ，そして，いろんな日本の歴史，風習など知ることができてよかったです。

7. 合同研修会について

合同研修会は，私達にとって唯一の楽しみでした。慣れない日本での生活の中で研修をしていくには，最初はとまどうばかりでしたけど後から後からと，悩みがでて来てさみしかったこともありました。そんな中で同期研修生達と会え，その都度研修先での生活状況，相談，意見交換などして夜おそくまでお話しに花がさきました。

8. 本邦での生活状況

井槌産科婦人科病院内の寮で今まで生活してきました。そして，先輩に対する言葉づかいや礼儀など教わりました。日本語には，あまり不自由はしませんでしたけど解剖生理では悩まされました。あと６ケ月間，寮生活が続きますけど，その間に学ぶ事がまださくさんあると思います。そして，ボリビアに帰ってからもきっと役に立つと思います。あと研修も６ケ月です。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからも１人でも多くの研修生を受け入れて頂しいと思います。そして，これから研修に来られる人はできるだけ日本語，特に漢字をマスターして来た方が良いと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

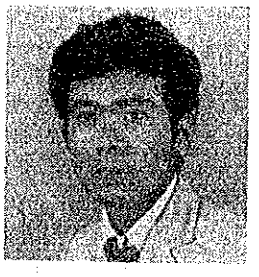
昨年の4月2日に国際協力事業団の研修生の1人として来日しました。私が来日した時はまだ寒く，暖かい国，南米から来た私たちは，薄着だったのでガタガタふるえるありさまでした。来日した時は桜の花も見られなかったけど，しばらくすると桜のつぼみもふくらみ満開になりました。印象的だったのは桜吹雪，夜桜がとても美しく，夢を見ているような気分でした。振り返って見れば，長い様で短かったこの1年半，いろいろと楽しい事，悲しい事，つらいこともありましたけど，1年半が過ぎ去ろうとしている今では，日本での生活にもすっかり慣れてしまいました。そして，多くの人達と知りあえ交流ができて本当によかったです。

初め3ケ月は，わからない事がたくさんありましたけど受け入れて下さった福岡市医師会看護学校および井槌産科婦人科病院のみなさまにいろいろと暖かいお心使いをしていただきまして，より多くの事を学ぶ事ができ，希望通りの研修ができて本当によかったです。

帰国後，研修中に得た知識をいかして少しでも多くの日系人やボリビア人のために役立てることができたらと思います。

最後になりましたが研修期間中見守って下さった国際協力事業団九州支部の研修生担当者をはじめ職員のみなさまにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。みなさま健康に気をつけて，また，いつかあえる日を信じ，その日が一日も早くおとずれるようお祈り致します。

比　嘉　　徹（ボリヴィア　オキナワ）



1. 研修機関　(1) 前期　沖縄県立浦添職業訓練校
　　(2) 後期　神奈川県立川崎高等職業訓練校
2. 研修期間　59年4月～60年9月
3. 研修職種　(1) 前期　電気機器科
　　(2) 後期　電子技術科

4. 当初の研修計画（テーマ　研修内容等）

(1) 弱電気

電子関係の基礎知識を学び，電子機種（ラジオ，テレビ，ビデオ等）の修理が出来程度実力をつけること。

(2) 日本語

日本語の読み書きを少しでも多く出来るようにして，充実した研修が出来るようにすること，また，正しい話し方を身につけること。

(3) 日本の社会

18ヶ月の研修生活をとおして日本の社会を知ること。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期研修

僕の前期研修は強電関係で，電気工事に必要なことを学びました。浦添職業訓練校では，午前は学科で午後は実習という日程でした。

学科で学んだ課題は次の通りです。

(1) 機械工作法：旋盤，ボール盤，フライス盤，研削盤

(2) 工業数学：数と式，関数とグラフ，対数，計算尺，珠算

(3) 電気機器(I)：変圧器，誘導機器，同期機

〃 (II)：直流機，整流装置，配電盤およびその付属器具

(4) 電気機器修理法：変圧器，誘導電動機，直流機，配電盤と制御盤の保守と修理法，設計法

(5) 電気理論：直流回路，電流と磁気，静電気，交流の性質，交流回路

(6) 電気工事編：電線の接続，接地工事，低圧屋内配線受変電設備，機械器具などの取り付けと接続。

(7) 電気測定法および試験法：電気計測，電気計器，応用測定，試験検査法

(8) 配電および配線設計編：発変電所，屋内配線の設計，積算

(9) 電気応用：電燈照明，電熱応用，電動力応用

(10) 電気関係法規：電気事業法，電気工事士法，電気工事業法

実習で学んだ課題は次の通りです。

(1) シーケンス制御

(2) 電気モーター始動装置

(3) 電気モーターの組立てと測定実験

(4) 高圧受電盤の配線

(5) 電線の接続と配線

＜成果＞

1. 技能照査の試験に合格し，技能士補の合格証書を取得

2. 電気工事士免状の取得

後期研修

川崎高等職業訓練校の電子技術科は1年課程ですので6ヶ月間研修期間を延長をさせていただきました。今（9月後半）学んでいることは次の通りです。

学科の課題

(1) 電　気　回　路：現象的に電気の性質をよく理解して，それを電気回路で理論的に確かめること。

(2) 電　子　回　路：電子回路を理解し，実際に回路を作成して実験をすること。

(3) ディジタル回路：ディジタル機種全般に関する知識と理解力を持てるようにすること。

(4) パーソナルコンピュータ　プログラム作成に必要な文法的な命令を覚えること。

実習の課題

(1) プログラミング：各自製作したプログラムをコンピュータに入力して実行させること。

(2) ディジタル回路の実験：ディジタルＩＣ（集積回路）を使って，回路の機能を理解し又，回路の反応を求めること。

(3) 測　　定　　：電子部品の測定実験と測定器の取り扱いを覚えること。

これからはラジオ，テレビ，ビデオの分野に進んで行きますので，修了するまでには，かなり充実した技術を身に付けることができると思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本では，電子関係の訓練校，専門学校などではコンピュータを重点におき，ラジオ，テレビはさほどでない感じがしました。コンピュータの新時代をむかえていたからでした。

やはり沖縄でも，ラジオ，テレビ関係の専門学校もなく，とりあえず基礎となる強電を専攻しました。前期研修は浦添職業訓練校で１年課程の電気機器科を修了できて良かったと思います。電気の基礎，そして今後ボリビアで必要性のある屋内配線，シーケンス制御，電気機器の知識を修得することが出来たからです。

後期研修にあたっては，川崎高等職業訓練校で，やはり日本の電子時代の波に乗ってるといえるでしょうか，電子技術科でコンピュータ，ラジオ，テレビの順序でいろんな電子回路を学んでいます。

電子技術科は一年課程ですので，研修期間を６ケ月延長しました。当初の目標のラジオ，テレビ，ビデオの修理技術はまだですが残りの期間で完全にマスターできるよう頑張りたいと思っています。

7. 合同研修会について

(1) 私達研修生は同じ制度で日本に来て，又南米から来たという兄弟意識があり，皆，集まることのできる合同研修会をいつも楽しみにしていました。

(2) 思れば，最初の合同研修会では適切なアドバイスなどを頂いて，私達日本で研修生活を始めにあたって，大きな力となりました。

(3) 研修旅行で日光での秋は，日本の秋を尊重させる美しい紅葉の風景でした。又日本の歴史，文化，史跡にふれることができました。

(4) 合同研修会を通して有利な国際的会話もできて，自分の人生におけるプラスになりました。

8. 本邦での生活状況

前期：1年間個人の家でお世話になり，何一つ不自由がなく申し分のない研修生活を送ることができました。おかげで皆勤までできた，感謝の気持ちで一杯です。

沖縄では暖かくてボリビアの気候に似て，又両親の故郷でもありまして，自分の故郷であると思えるようになっていました。親戚や知人に会えることができ，又沢山の友達ができたのがなによりです。日本の沖縄県とボリビアの沖縄移住地との交流を深める一助になれば幸いです。

国際協力事業団沖縄支部により，県内見学，パーティー，バーベキューなどもあり，又東南アジアの研修生，県費留学生の人達とも楽しい一時を過ごすことができました。

後期：研修先も風土も変って新たな研修生活が始まりました。研修センターに似た制度に変った海外移住センターでお世話になるように決ってホッとしました。半年間，不自由もなく楽しい研修生活を送ることが出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

(1) 毎日，日記を書くことは大事だと思います。日本語の上達にも良いし，又，貴重な思い出になると思います。

(2) 数回工場見学があってほしいです。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

幼い頃から両親や情報等により知っていた日本で，研修生活を通しての所感は様々ですが，次の3つにまとめます。

1. 技術的に見て

(1) 工場見学をして：訓練校から工場見学があり日本鋼館に行きました。鉄板を製造する工場の一部でしたが，原料の鉄鋼石から製品の鉄板を作るまでコンピュータの制御で自動化されていました。競争率の高い日本では生産量をアップし，良い製品を作って，コストダウン等の理由があるからだと思いました。年間，生産量は600万トンに達していても日本では第2位と聞きまして，感動と呆然とした気持ちでした。

(2) 情報等より：今では，自動車，電子機種，コンピューター等の工場では，最先端の技術を使って，毎年，機能，性能と良い製品を製造しています。これも戦後の苦しい時代の壁も越え，昼も夜も一生懸命研究を重ね続けた成果だと思います。

僕の研修と関連のある電子機器類一つにしても，コンパクト・ディスク（プレーレーザーディスク，ディジタル機種，8ミリビデオ等もそれらの技術の表わし方だと思います。

農業，畜産，養鶏等では，バイオ・テクノロジーを使っている所も少なくありません。半面，つねに高度は研究を進め，効率良い産業を発展させていると思います。

(3) 茨城県つくば科学万博'85を見て：僕にとって，初めて見るものばかりでした。立体映像，

絵書きロボット，付加価値通信網，etc，etc……

今後，ありとあらゆる技術が実用化されもっと日本は，豊かで，住み良い未来をむかえるでしょう。最後にいえますのが，貿易摩擦の激しい中，何にしても日本製品は世界的に信頼性と人気を集めているのも日本の技術の一つの証拠ではないでしょうか……

2. 生活を通して

(1) 生活の機械化について：ボリビアと日本の生活を比較すると日本ではサービス業などが，人の直接たずさわるような仕事が機械化されていることを感じました。例えば駅のキップ自動販売機や無人改札，それに町中にあるいろいろな自動販売機（ジュース，タバコ，ラーメン，本，コインランドリー）などです。

(2) 交通機関：日本では自家用車がなくても電車，地下鉄，バスなどを利用して好きな所に行く事ができます。

(3) エスペクター・スポーツについて：ボリビアでは誰もがプロサッカーを楽しみますが，日本では，プロ野球と大相撲を楽しみます。

3. 専攻学科をとおして

先に書いた通り沖縄と川崎の二つの訓練校に行き，どちらの訓練校でも熱心な指導を受けることができました。ただ専門用語を覚えるまでは少し苦労しました。又，スペイン語ではすでに知っている言葉でも日本語では最初から覚えねばなりませんでした。しかし，何よりもおどろいたのは，ボリビアに比べて専門書や技術書の多さでした。選ぶのに苦労する程でした。

＜まとめ＞

一年半の研修期間を通して技術を身につけることが出来，それ以上の喜びはありません。そして，勉強以外でも日本に来たからこそ知りえた多くの知識や情報も貴重な財産となりました。日本で成人をむかえることができ，又，多くの得がたい友人達も，もつことができました。

今回の研修は僕にとって，一つの活動源となると思います。帰国後は，地区で技術を生かし少しでも超インフレのボリビアを建て直す力になるために努力していきたいと思っています。

最後になりましたが，この素晴しいチャンスを下さいました国際協力事業団，又，いろいろとお世話になりました訓練校の先生方，親戚，お友達，日本の皆様誠に有りがとうございました心から厚くお礼申し上げます。僕はいつまでも，この感謝の気持ちを抱いて人生を歩んで行きます。

山　本　富士佳（ドミニカ
サン・クリストバル）

1. 研修機関　(1) 前期　宇部短期大学
　　(2) 後期　宇部電子計算センター㈱
2. 研修期間　昭和59年4月～60年9月
3. 研修職種　コンピュータ（ソフトウェア）

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

私は日本に来る2年前からコンピュータ（ソフトウェア）の勉強をしていましたので，研修内容はもちろんコンピュータ（ソフトウェア）関係，それまでまだ勉強してなかったプログラム言語を学ぼうと思いました。それと日本はドミニカよりコンピュータ関係のことはずっと進んでいるので，もっと良い勉強になると思ったからです。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期研修は宇部短期大学情報計数学科で，昭和59年5月～昭和60年3月まで勉強しました。

講　義　情報処理概論，電子計算機概論，計算機プログラムⅠ，Ⅱ，Ⅲ，システムプログラム，経営工学，計算機応用

実　習　計算機プログラムⅠ，Ⅱ，Ⅲ実習

演　習　計算機プログラムⅠ，Ⅱ，Ⅲ演習，卒業研究

短大では，COBOLをおもにFORTRANとBASICも勉強できました。

後期研修は，宇部電子計算センターの開発課で昭和60年4月～60年8月まで実習しました。

計算センターの職種は情報処理サービス業です。私は受託によるソフトウェア開発，細く言うと，プログラムのメンテナンス，プログラムのデバック，バッチプログラム，オンラインプログラム，サブプログラム，新規プログラム，ジョブ制御文の作成をしていました。

プログラム言語はCOBOL，機械はFACOM M160—F，短大と同じだったため機械の操作は思ったより簡単でした。ただ会社での仕事は私が希望していたこととはちょっと違っていたので，思った通りには勉強できなかったことが残念だと思います。

最後に国際女子研修センターで生け花，茶道，アートフラワー，料理，など特別研修がありました。

6. 当初の研修計画と実績の研修内容とを比較して

私はドミニカにいる時からプログラムの勉強をしていましたが，短大に入ってそれまで知らなかったプログラミング言語を中心に勉強し，知っていたものも生かすことができ，当初の研修計画以上に学ぶことが出来ました。会社での経験は思った通りにいかなかったが，人間のあつかい，仕事の流れ，グループで仕事することを見ることが出来ました。またその仲間に入ってこれまで覚えていたことを生かし，しらないこともおしえてもらい，ドミニカに帰っても役にたついい実習になりました。

7. 合同研修会について

昭和59年4月2日から1週間ほど初めての合同研修会が行なわれ，私と同じ18ケ月間研修する人達と会って，各国の話がいろいろと出来，すぐ友達になりました。それから合同研修会は3回行なわれ，忙しい研修の中からちょっときゅうけいと言う感じでみんなが横浜のセンターにあつまって，話し合い，旅行などが出来てとても楽しかったと思います。

私の心の中ではこの合同研修会でしたこと，覚えたことが一生忘れられないと思います。

8. 本邦での生活状況

日本について最初の1ケ月間は横浜の移住センターでみんなと楽しくすごしました。研修先に行って下宿生活が始まりました。センターでの生活が楽しすぎてらくだったため，最初の2～3週間はとても寂しかったことを思い出します。それから短大でも友達が出来，1人でくらすことにも少しずつなれていきました。下宿は古い建物だったので車が通る時，地震が来たようにゆれていたので，なれるまで夜もゆっくり眠れなかった。けれど本当に地震が来た時，車が通ってると思いながら日本に来る前ほどこわくなかった。短大が終って会社に入る前，アパートに変りました。下宿よりもアパートの方が楽で自由だったので，もっと自分なりの生活をすることができました。食べ物の方は全然問題なかったので，日本についた時と比べたらだいぶ太りました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

一生懸命勉強し，日本の良いところ，悪いところ，よくみにつけてほしいと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

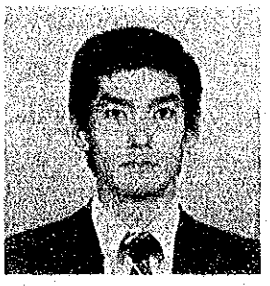
1年半の間で勉強したこと，見たことはいっぱいだけど，もっとやりたかったことが日が過ぎると多くなって，なんとなく研修期間はちょっと短かかったかなあと思いました。

けれどもここで覚えたことは私のこれからにはどの面から見ても役に立つことが分かります。

ドミニカに帰って日本の技術をみんなに教えることが出来ます。今，私の大きな夢はドミニカでソフトウェアハウス又は電子計算センターを作ることです。けれどもそれまでもっともっと勉強をしなければなりません。

この1年半，宇部短期大学，宇部電子計算センターでお世話になった先生達，友達達，事業団の方方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

地球は大きいようで小いさいです。またどこかで会う日を楽しみにしています。



崎　浜　秀　樹（ペルー　リマ）

1. 研修機関　(1) 前期　日本工学院専門学校
　　(2) 後期　同　上
2. 研修期間　昭和59年4月～60年8月
3. 研修職種　テレビ映画製作

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

私はテレビの番組のディレクターを目指しているので，テレビ制作に関するには幅広い範囲で研修を進めて行こうと思っていました。

○　まずハードの分野

VE（VIDEO ENGINEER），映像技術者のことで映像機器全般の責任者のこと。番組制作にあたっては副調整室の機器を良質で安定な画像を得るよう調整，又各カメラの画質や各映像機器の操作，運用を担当。

○　ソフトの分野

カメラ操作，照明，編集など，テレビ視聴者に番組の思想や狙いをどのように正確に伝えるか。

このようにハードとソフトをマスターして，結果的にはディレクターに結びつくのではないかと思っていました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

1　年　次

蒲田の日本工学院専門学校で昭和59年4月から通学しはじめました。授業は月曜から土曜，朝9時から午後3時にかけて4科目を毎日勉強していました。

前期：音楽演習Ⅰ，CM概論，ラジオ演出，電気概論，芸術学Ⅰ，放送基礎，テレビ照明，テレビ美術制作，ホームルーム，イベント概論，放送文章，英語Ⅰ，社会学，映像技術論Ⅰ，放送基礎実習，音声技術論，脚本論

後期：では多少異なり，ラジオ演出，テレビ照明，テレビ美術制作，イベント概論がなくなり，かわりに舞台照明，舞台美術制作，テレビ演出基礎がくわえられました。

1年次では実習時間が週3時間，はじめに美術制作の実習，大道具（装置）と小道具（装飾）に大きくわけられる。

大道具ではセットプランにしたがって実際スタジオ内での建込み，機材の使い方，例えば平台，箱足などの使用，又細かい点では釘のうちかた（簡単なようであるがはずしやすいようにうつこつがある）。

続いて照明に入り，ここでは照明器具の名称，照明装置，レンズの使用，電源のとり方，照明用カ

ラーフィルター，照明仕込図の読み方，そして最後に一人の人物の基本的な照明。

映像面ではカメラの名称と働き，カメラ操作，カメラの取り扱い方，カメラケーブルのまき方など，続いてはカメラワーク，人物の操り方など，又，スイッチング卓についても少しはかりやりました。

音声では特にラジオの実習が主で色々なマイクの使い方，テープレコーダの運用，そして最後にはＤＪ（ディスクジョッキー）番組を作りました。

後期に入るとテレビ実習より音声とスライドを合成した写真構成を制作しそれをビデオで録画しました。

２　年　次

前期：番組研修，カメラ照明ゼミ，英語２，ホーム．ルーム，民間放送概論，芸術学，ＶＴＲ技術，電気概論２，心理学，映像ニューメディア研究，映像技術論２，映画放送概論，音声技術論２

実習の面では週３時間あり，特にカメラと照明には力を入れた実習になりました。

１年次の基礎実習を生かし，２年次の前期では対談番組，ソフトボール中継，音楽番組を制作しました。

成果：専門学校で学ぶことは範囲が広く，基礎的な勉強が主です。日本人の学生の場合，就職が決まり，やく１年間あるいはそれ以上会社で改めて勉強をします。ですから本当の成果は私自身学校で学んだことがペルーへ帰ってそのまま役に立つか聞かれたら，答えにちょっと不安です。ですから１年半の研修を終えて，あと６ケ月日本でテレビプロダクションに入り，プロといっしょに学びたいと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

具体的に計画と実際に受けた研修は大きい違いはありませんでした。ただ学校での実習時間が少く感じました。

7. 合同研修会について

私たちはやはり南米日系人であり，日本人ではありません。

合同研修では，研修の苦難，カルチャーショック，人間関係など色々な面でたまったストレスを発散する機会となります。

又，研修旅行では日本の文化，自然などを身近かに感じることができ，日本をもって知ることに役立つと思います。

8. 本邦での生活状況

私は１年半海外移住センターで宿泊しました。私たち第１４回がはじめてこのセンターで宿泊し，各人の研修さきへ行くことになりましたので，はじめのころは色々な問題が出ました。例えば自炊の当番に当たっても，買物，料理，あとかたずけなどをする人を決めることに対しても，最初のころは大変苦労しました。しかし，これもいつのまにかスムーズに行くようになりました。

あとは土日をみんなのひまを考え，近くに散歩にいったり，日帰りの出来る，鎌倉，箱根などを見学し，大いに楽しむことが出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

もっと広い範囲の研修制度にしてほしい。いままでは主に農業関係の研修に力を入れてきましたが，南米でも二世三世は農業からはなれて，都会に住み，様々な分野で活躍しています。それなりに学問の分野でも様々です。徐々に制度の変化がみられますが，その分研修を受けいれる所も開放したらと思います。

日本は今まで優秀な生徒として各国の文化を学び，そして現在このすばらしい国が出来ました。今後，日本が優秀な先生になるべき時が来たと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

思えば時は早くたちました。

昨年まだ肌寒い春に着き，センターの桜の花が散りはじめていたことはとても印象的でした。

電車，車，人そして又人にはおどろくばかりでした。私も通学しはじめた時はいっしょにあわただしく駅のホームを駆け走したものです。

日本ではペルーにくらべると国土が$\frac{1}{3}$ですが，四季があり，これは女性の装いのようで魅力的な変化でもあります。もう一方では，京都，奈良，鎌倉のように町全体が歴史のようです。そうかと思うと反対に東京，横浜，大阪のように近代都市もあり，ペルーより何倍も文化の重さを感じました。

ペルーは現在歴史上もっとも深刻な不況に入っています。政治的，経済的，文化的に問題をかかえています。その中で研修で得た知識をペルーでどのように生かすか，又就職先の問題がありますが，大きく夢を抱いてペルーのテレビ局へ入って自分の番組を持ち，国民のため自分のために活躍したいと思ってます。

研修期間中，色々な人たちと出あい，ふれあい，同研修生と友情を結び，これから南米へ帰っても大きな力と良い想い出となりました。

日本で無事研修を終えることが出来ましたのも多くの人たちのご支援，ご協力によるものです。いつか近い日に又再会出来ることをねがい，みな様のご健康をお祈り致します。

国際協力事業団関東支部の研修生担当者及び海外移住センター皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

岡　本　ルイサ（ペルー　リマ）

1. 研修機関　(1) 前期　東京医科歯科大学歯学部歯科矯正学第一講座

(2) 後期　同　上

2. 研修期間　昭和59年4月～昭和61年3月

3. 研修職種　歯科矯正学

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

		基　礎（座学）	臨　床　（実　習）
第一学年	前期 4月～9月	歯科矯正学（診断，治療学） 解剖学	タイポドント実習 外来治療（療例分析，教授，診断および治療学） 治療装置の製作
	後期 10月～3月	組織学 生理学 統計学 生化学	タイポドント実習 外来治療 症例検討 治療装置の製作
		基　礎（座学）	臨　床　（実　習）
第二学年	前期 4月～9月	歯科矯正学（診断学および治療学）	外来治療 症例検討
	後期 10月～3月	歯科矯正学	外来治療 症例検討

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

基　礎（座学）

1）解剖学では，歯顎顔面の形態と構造，生理学では，下顎運動や筋電図（口輪筋，咀嚼筋），統計学では，確率的な考え方やデータの処理法，また，組織学では，組織切片の作製法や歯および歯周組織の微細構造について学びました。歯科矯正学と関連した新しい基礎知識が得られ，大変勉強になりました。

2）歯科矯正学では，総論として，診断学および治療学における基本的概念や，診断法や治療法の歴史的推移を，また，各論として，診断，治療および装置についての詳細を学びました。当初，日本語があまりよく理解できずに困りましたが，友達に聞いたりしているうちになんとか講義の内容を理解できるようになりました。

臨　床（実習）

1）タイポドント実習

外来患者の矯正治療を始める前に，まず，模型上の不正咬合を使って，バンドの適合および装着，ブラケットの接着，ワイヤーベンディング等のトレーニングと，治療の基本的手順について実習しました。

2）外　来　治　療

約30台の治療ユニットおよび最新の設備を有する東京医拘歯科大学矯正診療室において，種々の不正咬合をもつ患者さんを担当させていただきました。バンドの装着，ブラケットの接着，ワイヤーベンディング，ろう着等大変むずかしいでしたが，実際に歯の移動によって，不正咬合が改善されるのを見ると感激しました。小児から大人までのいろいろな年令の患者さんと接し，いろいろ話をするうちに，日本語もだんだんうまくなってきました。また，診療システム，外来患者の資料保存法，アシスタントの役割等についても勉強できました。

3）症　例　検　討

私が担当させてもらった患者さんの治療経過について，臨床グループの先生方に報告し，検討しました。治療法の妥当性，装置の選択，歯顎顔面の成長等について，有意義なアドバイスがありました。

4）治療装置の製作

矯正臨床で使用する各種の装置を自分で設計し，製作しました。舌側弧線装置，急速拡大装置，床矯正装置，機能的顎矯正装置，保定装置など，マスターできました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

歯科矯正学の基礎と臨床を研修することが当初の計画でしたが，実際には，基礎歯学および歯科矯正学の講義に始まり，外来治療の見学，治療の基本トレーニングを経て，実際に患者さんを治療し，治療装置も作製しました。その研修内容は当初の計画をはるかに上まわり，十分すぎるほどでした。

このようなハードなカリキュラムは，私にとって大変でしたが，歯科矯正学の基礎と臨床をしっかり研修できて，しあわせだと思います。

7. 合同研修会について

久しぶりに母国の友達に会い，スペイン語でいろいろなことを話し合って，ゆったりとした気分になりました。研修の進行状態など意見を交換することにより，自分を振りかえるとともに，これからの研修の参考にして頑張りました。

研修旅行では，東北地方の文化や歴史に触れることができ，日本でのよい思い出になりました。

8. 本邦での生活状況

日系三世である私にとって，祖父母の祖国である日本で，両親と離れ一人で生活することを体験で

きたことは，幸福だったと思います。

親せきや友達の家での楽しいひとときを通して，日本の家庭のことを学ぶことができました。帰国したら，日本で経験したことのすべてを両親に話し，日本の事をもっと理解させてあげたいと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

1) 日本語（会話，漢字の読み方）や日本の社会のことをよく勉強しておくことが必要と思います。

2) 日本に研修に来る前に，自分がどんな事を学びたいかをはっきりしておくことも重要だと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

私は，歯学において，日本のトップレベルにある東京医科歯科大学歯科矯正学第一講座で研修できたことを光栄に思っています。

先に述べましたようなカリキュラムで，歯科矯正学の基礎と臨床を，三浦教授はじめ教室員の皆様のおかげで研修でき，その研修内容は，当初の計画を上まわり，すばらしいものと思います。

私は，日本で研修した歯科矯正学の知識を母国ペルーに伝えることにより，日本とペルーの学術交流の一助になるよう頑張りたいと思います。また矯正学会，医局旅行などに参加させていただき，いろいろな人々と語り合えたことは，日本の楽しい想い出となるでしょう。最後に，このような機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様に心より感謝いたします。

本　保　恵　子（チリ　サンティアゴ）

1. 研修機関　(1) 前期　昭和59年4月～60年2月
日本工学院専門学校
(2) 後期　昭和60年3月～6月初め
細川デザイン事務所
6月～9月
エイダス・インターナショナル

2. 研修期間　昭和59年4月～60年9月

3. 研修職種　グラフィック・デザイン

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

私はチリでグラフィックデザインの勉強をしていたので，第14回子弟研修生として応募した時私の研修計画は先ず，自分の専門の知識をもっと深める事でした。出来れば，イラストレーション，写

真，印刷技巧，編集デザイン，コーポレート，アイデンティティ，アドバタイジング・デザインなどを勉強しようと思っていました。そして日本では，デザインのプロセスを実際の職場でどのように行なわれているのかを実務研修によって学びたいと思っていました。日本の進んだ技術，日本の芸術的な感覚を身に付ける望みを抱いていました。

又，日系人として，日本語を勉強し，日本の文化，社会，習慣，現在の日本人の生活，考え方などを理解する事。そしてチリを外から見て，自分の回りを見直し，世界に向けて視野を広げる事。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

(1) 日本工学院専門学校

4月，日本工学院専門学校へ入学しました。デザイン科の担当先生が私の為に1年コースのプログラムを組んで下さって，自分に一番必要な課目を選択し，勉強させていただきました。

① デザイン演習1

グラフィックデザインの感覚訓練をし，基本的な表現から完全なデザイン製作をする事。

② デザイン演習2

印刷物の表紙のデザインから目次，本文ページの文字，写真，図表，イラストレーション等のレイアウトを編集デザイン全般にする事。

③ イラストレーション

イラストレーションとはどの様な物かを描写を中心とした方法により追求し，木炭やアクリル絵の具などを使い，表現力の幅を広げて行く事。

④ レタリング

漢字を代表とする和文書体から始まり，欧文書体の代表的書体まで行い，此れらの基本を知って，文字を正確に表現出来る様に訓練する事。

⑤ 写　　真

カメラの種類と機能，撮影，フィルム現像暗室の使い方などの色々な知識や技術を学ぶ事。

⑥ アニメーション

一つの物語を考え，これを絵の連続に表現し，そして音声を入れ，漫画映画を作る事。

グラフィックデザインと一言に言っても，たくさんの種類があり，例えば，コーポレト・アイデンティティ，エディトリアル・デザイン，アドバタイジング・デザインなどが，今ではデザイン関係の職場によって，特にデザイン事務所の場合，それぞれの種類を専門的に行なわれている為，一つの事務所だけでは不十分であり，出来るだけ多くのデザイン事務所へ行き，それぞれの種類について勉強したかったです。此れについて後期は工学院の先生方の紹介で下記の職場で実習する事が出来ました。

(2) 細川デザイン事務所

この事務所ではコーポレート・アイデンティティ（ＣＩ）が中心の分野であり，色々な企業，産業などのイメージによって，それぞれのシンボル・マーク，トレード・マーク，ロゴタイプを創作していました。そしてこのシンボル・マークやロゴタイプを一つのシステムとして，ステーショネリ（便せん，名刺，封筒），車両アイデンティフィケーション，建物壁面のサイン，製品パッケージなどに応用して，ＣＩのデザインプロセスが分かる事が出来ました。

(3) エイダス・インターナショナル

エイダス・インターナショナルと言う会社では企業の海外向き広告印刷物を作る事務行なわれています。この活動はエディトリアルデザインとして，色々な企業のアニアル，レポート（年報），会社案内，マニュアル，パンフレットを制作しています。上記の内容について，全般のデザインを決定し，写真，イラスト，本文の書体を選び，この素材をレイアウトをして，最後に印刷の為の版下を作る事をさせていただきました。

（成　果）　最初は日本語に余りに慣れてなく，工学院の先生の話について行くのは辛かったので毎日の勉強はかなり大変でした。課題も多かったので良く徹夜しました。しかし，どんなに辛い問題があっても，自分の勇気をくじかないで最後まで頑張って行こうと決心しました。先生方や同級生達が親切に教えてもらえ，日々が過ぎて行く内に授業の内容は十分について行く事が出来，そして新たな知識を学び，研修は大変役に立ちました。細川デザイン事務所やエイダス・インターナショナルのデザイナー達にも親切にグラフィック・デザインの職業的な面を教えていただきました。

そして後半年研修期間を延長していただき，もっと深く勉強したい事を是非とも身に付けたいと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私はチリ国から来た国際協力事業団の子弟研修生として初めてであり，日本に来る前は先輩の助言を求める機会がなかったので，自分の希望を実現出来るかどうか不安でした。しかし，この１年半を振り返えって見ると，当初の研修計画よりも良い勉強が出来たと思います。工学院の先生方はすばらしく，チリで学べなかった事を教えていただきました。そしてこの先生達の紹介のお蔭で良い実習研修先を見付ける事が出来ました。こちらでは職業的な仕事をさせながら，もっと多い勉強になり，りっぱな経験になりました。

又，この１年半に様々な日本人達と付き合っている内に段々日本語に慣れ，漢字も日本に来る前よりも随分読める様になりました。

7. 合同研修会について

私達研修生として，合同研修会は人間関係に対しては大切な経験だと思います。皆違う国から来てるが，最初から良い友達になり，合同研修会にて先輩達からの助言や個人体験を聞かされ，同期研修生とは悲しみや喜びの時を共に過ごし，より交流を深める事が出来ました。そして南米国の事情を分

け合ったりしながら，ポルトガル語も少しづつ分かる様になりました。

研修旅行の時は，日本の重要な文化財や地方の風景を知る事が出来ましたので，とてもすばらしい機会でした。

8. 本邦での生活状況

1年半の研修期間，海外移住センターで7人の14回生と一緒に生活しました。皆と良い友達になり，1日の研修を終え，疲れてセンターに帰り，炊事し，一緒に夕食をとる時には悩みを分け合ったり，楽しんだりもしていました。共同生活をし，私達の人格を形成するのには良い体験だったと思います。

特に問題だったのは私が日本人の顔をしていながら，タドタドしい日本語を話すと，他の人達から変な顔をされるので，必ず私は日系人だと，事情を説明しなくてはならない事でした。それから，駅で電車に乗る時も看板の漢字が良く読めなくて，方向を間違え，よく失敗しました。

しかし，1年半過った今では此れらの事に慣れ，日本人の生活状況も少しづつ理解して来たので，日本での生活は私の人生にとって大きなプラスになると思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生は日本に来る前に研修計画を具体的に立てる事，そして研修はなるべく有用になる様に，日本語をしっかりと勉強したら良いと思います。又，ＪＩＣＡの南米国の支部はそれぞれの研修生に研修先の情報を随分前から提供する事をお願いいたします。

そして，子弟研修生は日本の生活状況を理解出来る様努力して欲しいと思います。日本人の考え方，行動はそれなりの社会的事情が反映しているので，余り南米的な考え方で批評するのは良くないと思います。そうすれば人間関係の面でももっとスムーズに行くと思います。これについ，出来るだけ友達をたくさん作る事は良いと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

ＪＩＣＡの蔭で日本に来る事が出来て色々とすばらしい経験になりました。私の研修内容についても色々と勉強が出来，たくさんの親切な人とも知り会える事が出来，そしてたくさん友達も作りました。

チリへ帰国後自分の学んだ事を出来るだけ生かし，日系人として誇りを持っていい仕事をして行きたいと思います。そして，ここでの経験を多くの人達に伝え，特に日系人社会には出来るだけ日本の文化，言葉などをもっと大切にして，その重大さを伝えたいと思います。

最後，国際協力事業団の皆様，海外移住センターの職員の皆様へ心から感謝申し上げます。この1年半本当に色々と楽しみや悩みがありました。その為，人間としても以前より少しでも成長したと思います。

この1年半，本当にありがとうございました。